公開資料

戦略的創造研究推進事業
（社会技術研究開発）
研究開発実施終了報告書

［研究開発成果の定着に向けた支援制度］

「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」
研究開発領域
「養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステムの構築」

研究開発期間　平成 27 年 11 月～令和 3 年 3 月

研究代表者　友田　明美
（福井大学子どものこころの発達研究センター 教授）

本研究開発プロジェクトは、当初の研究開発期間後の平成 30 年 12 月より「研究開発成果の定着に向けた支援制度」の適用となったため、本報告書は同制度適用期間中（平成 30 年 12 月～令和 3 年 3 月）の実施を報告するものである。

平成 27 年 11 月から平成 30 年 11 月までの研究開発成果については、「研究開発実施進捗報告書」に記載し、RISTEX HP にて公開している。

目次

Ⅰ．本研究開発実施終了報告書サマリー 3

Ⅱ．本編 4

１．プロジェクトの達成目標 4
　１－１．プロジェクトの達成目標 4

２．研究開発の実施内容 5
　２－１．実施項目およびその全体像 5
　２－２．実施内容 5

３．定着支援期間中の成果 13
　３－１．目標の達成状況 13
　３－２．定着支援期間中の成果 15

４．領域目標達成への貢献等 20
　４－１．領域目標達成への貢献 20
　４－２．その他 21

５．研究開発の実施体制 22
　５－１．研究開発実施体制の構成図 22
　５－２．研究開発実施者 22
　５－３．研究開発の協力者 25

６．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など 26
　６－１．社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など 26
　６－２．論文発表 33
　６－３．口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） 36
　６－４．新聞報道・投稿、受賞など 39
　６－５．知的財産 44

７．領域のプロジェクトマネジメントについてのご意見や改善提案（任意） 45

８．その他（任意） 45

Ⅰ．本研究開発実施終了報告書サマリー

子ども虐待防止には、大人が子どもを虐待する危機的状況になる前に、養育者が抱える健康･育児･生活経済･家族などのリスクを早期に把握し支援する予防対策が重要である。本プロジェクト（PJ）では、虐待のハイリスク家庭をスクリーニングするのではなく、虐待より広義で、全ての家庭で身近に起こり得る「マルトリートメント（世界保健機関 WHO の定義では、子どもへの避けたいかかわり、養育すべて；以下マルトリと略す)」の予防で、深刻な虐待の軽減を目指す「マルトリ予防モデル」を構築し、全国普及することを目標にした。

本 PJ は「養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステムの構築」黒田 PJ の分担研究グループ（福井大学：友田）で創出された以下の３点を研究成果とした。①「子ども虐待の発生メカニズムの科学的根拠」の成果物と関連する国内外の研究成果。②「子どもを健やかに育むために～愛の鞭ゼロ作戦～（H28 年厚生労働省)」に友田グループが既に発表し提供した研究成果。③大阪府こころの健康総合センター（第１の協働実施者）が、友田グループ（研究代表者）と大阪府内の保健福祉行政・医療関係者・関連研究者延べ 81 名との意見交換会で得られた現状と課題。

現状と課題は、「マルトリ」「とも育て」などの概念の認知度の低さや、同じ言葉でも専門領域（母子保健、児童福祉、精神保健など）により認識の差があったことである。「マルトリ予防」「とも育て」などの言語や概念を共通に普及し、多職種・多機関の垣根を越えた協同体制を醸造するために、実装地域は母子保健、児童福祉、精神保健の全ての担当を一つの行政を一体的に運営している中核市の豊中市・枚方市と協定を結んだ。

研究代表者は、協働実施者と実装地域の事業協力者とともに、「マルトリ予防」「とも育て」について、職域や領域にかかわらず活用できる資材を複数作成した。作成された資材は①研究代表者による視聴覚講義動画と映像テキストブック、研修用アンケートなどの「支援者向け研修プログラム」②「支援者向け Q&A 集」③「市民向け啓発資材」である。具体的内容は、以下になる。A.マルトリ（しつけという名の体罰、暴言や脅迫、配偶者間ＤＶを子どもに見聞きさせるなど）は子どもの脳や発達に好ましくない影響を与える。B.幼少期のマルトリは成人後の心身の健康にまで影響する。C.一見健康に見える家族や大人であっても、何らかのマルトリの影響を受けている可能性があり、そのことを理解して対応することが望ましい。D.子どもの発達支援にとどまらず、養育者の養育をほめて育てる対応が、子どもへのマルトリ予防及び成人後の心身の疾患予防につながる。

これらの資材は、第２の協働事業者（一般社団法人日本家族計画協会：JFPA）が福井大学と新規開設した「マルトリ予防 WEB サイト（marutori.jp)」から視聴でき、さらに会員登録（マイページ作成）の上、資材利用申請をすると、資材が無料ダウンロードでき、勉強会や研修会で活用可能となる。マイページは、個人・機関問わず登録可能で、資材の利用、活用状況、研修用アンケート結果などが蓄積でき、報告書等の作成の一助となる。さらに、資材利用申請で得られた利用対象、資材活用事例、全国への普及状況、研修効果などは、匿名で集計し、トップページに視覚化される。サイトにアクセスした人は、視覚化されたデータや活用事例を閲覧し、「マルトリ予防®」と「とも育て®」を学習することで、自らが汎用性のある資材を活用し、「マルトリ予防®」と「とも育て®」の言葉や共通概念を普及する担い手となることを理解し、「マルトリ予防 WEB サイト」を中心とした「マルトリ予防モデル」システムが循環していく。

「マルトリ予防 WEB サイト」は、福井大学と知的財産利用許諾契約書を締結した JFPA が共同で管理運用し、JFPA 既存の普及啓発事業や研修、研究代表者の講演活動等で紹介され、資材の QR コード等からもアクセスされ、普及していく。そして、全ての大人が「マルトリ」に「気づき」「理解」し、養育者や支援者を「とも育て」出来る「安全安心に子育てができる地域社会」の実現に向けて全国への普及を目指すことが、本 PJ の最終目標である。

Ⅱ．本編

１．プロジェクトの達成目標

１－１．プロジェクトの達成目標

子ども虐待防止には、養育者が子どもを虐待する危機的状況になる前に、養育者が抱える健康･育児･生活経済･家族などのリスクを早期に把握し支援する予防対策が重要である。協働実施者は、研究代表者の研究成果「養育困難・子ども虐待のリスク解明（生物学的要因）」などのエビデンスを通して、母子保健、児童福祉、精神保健、全ての担当を一つの行政、市で一体的に運営している中核市の豊中・枚方両市と連携協力し、子育て家族、地域住民に対して、以下のことを啓発普及する「マルトリ予防モデル」の構築を目指す。

・養育者によるマルトリ（しつけという体罰、暴言や脅迫、配偶者間ＤＶを子どもに見聞きさせるなど）が子どもの脳や心の発達に好ましくない影響を与える

・幼少期のマルトリは成人後の心身の健康にまで影響する(Adverse Childhood Experiences study)

・一見健康に見える家族や大人であっても、何らかのマルトリ経験があり、中にはトラウマになっている可能性があることを理解し、対応することが大切である（トラウマ・インフォームドケアの概念）

・親と子どもの適切なかかわり方（ほめて育てるなど）が大切なことを知り、対応することが、子どもへのマルトリ予防及び成人の心身の疾患の予防につながる

具体的には、福井大学子どものこころの発達研究センター友田グループが、豊中市、枚方市の母子保健、児童福祉、精神保健で実際に親子相談に従事する現場職員と「マルトリ予防®」と「とも育て®」などの共通言語の認識を深め、子育てにおけるマルトリ予防と子育て支援におけるそれぞれの役割の理解を深め、母子保健、児童福祉、精神保健などの養育者に関わる多分野の支援者が共有し活用できる研修・啓発資材を開発することにより、最終受益者である（養育者を含めた）市民にかかわるとき（面談など）の助けとなるものを協働で創出していく。研修体制作りや支援者・市民向け啓発資材は、各担当者が支援チームとして協働する基盤構築となり、各々の支援方法の理解を促す。

コンセプトは、母子保健、児童福祉、精神保健など、どの窓口職員でも子どもにとっての「養育者」としてのみ捉えるのではなく、養育者自身の生育歴（例えばマルトリ経験の有無）や生活環境、メンタルヘルスなどに「気づき」「見える化」し、目が向けられるようになり、「マルトリ予防®」と「とも育て®」が大切であるという共通認識を持つことである。異なる専門領域の支援者が共通の教材による研修を受けることで、家族丸ごと支援する意識を醸成し、支援者間の協働体制を強固にすることを目指す。

本実装事業の取組は、子どもの発達支援にとどまるものではなく、マルトリが全市民の心身の健康に大きく影響していることを啓発していくことに他ならない。妊婦や家族が「マルトリ予防」や「ほめ育て」の意義を理解し、自らが幼少期に受けたマルトリによるトラウマから子育てストレスや不安が起きていることに「気づき」「見える化」することで対応の仕

方を理解する。また、困難を感じたときには相談できる支援者との信頼関係が結べることで、自己肯定感が育まれ、我が子への虐待リスクも軽減される。最終的には、一般市民全体に「マルトリ予防®」と「とも育て®」に関する概念の理解が広がり、市民（養育者含む）が「安全安心に子育てができる地域づくり」が構築されることを、本研究成果の定着と考え、本実装事業「マルトリ予防モデル」システムの全国への普及を目指す。

２．研究開発の実施内容

２－１．実施項目およびその全体像

A　事業計画の策定

実施項目①中核市職員の現状の認識やニーズなどの調査・効果検証

実施項目②職員個々の対応力向上及び組織的対応力向上の事業計画立案

A‘　コンテンツ整備

実施項目③ニーズ調査・アンケート作成と効果検証・分析

実施項目④研究成果を踏まえた「支援者向け研修プログラム」の開発と「支援者向け研修」体制の構築

実施項目⑤「マルトリ予防モデル」定着の支援者向け資材・市民向け啓発資材の作成

実施項目⑥「マルトリ予防モデル」定着に向けた他 PJ との協働体制の構築

B　事業計画の実行のための準備

実施項目⑦大学と中核市の情報共有にかかる契約内容整理

実施項目⑧取り組みを行う体制確保の調整

実施項目⑨全国普及に向けた福井大学での知財・体制などの整備

２－２．実施内容

A　事業計画の策定

実施項目①中核市職員の現状の認識やニーズなどの調査・効果検証

(1) 目的：豊中市・枚方市の実務者が「マルトリ予防®」と「とも育て®」などを認識し、支援者に普及する準備をする。

(2) 内容・方法・活動：2018 年 11 月に協働実施者である大阪府こころの健康総合センター主催により、研究代表者が講師の研究開発成果を含めた研修会を実施し、予備調査を行った。実装地域の事業協力者である枚方市は、2019 年 12 月に「支援者向け合同研修会（第 1 回）」を開催するにあたり、枚方市児童虐待問題連絡会議において、福祉・教育分野の協力を得て計画を進めた。豊中市は「支援者向け合同研修会（第 2 回）」を 2020 年 6 月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行のため、プロジェクト終了間際の 2021 年 3 月に延期し、対面研修では

なく「オンライン研修会」の開催を企画した。

(3)結果：枚方市の「支援者向け合同研修会（第1回)」には207名が参加した。延期された「支援者向け合同研修会（第 2 回)」は、既存の「豊中市電子申込システム」を活用した申込制の「オンライン研修会」とし、2021年3月9日～19日の11日間24時間いつでも視聴できる方法で開催し、研修申込者が430名に至った。

(4)特記事項：「マルトリ予防WEBサイト」が2020年11月中旬に開設され、プロジェクト終了までの数か月で、いくつかの活用事例が集まる一方、会員登録や活用方法に関する問い合わせがいくつも聞かれたことから、「豊中市のオンライン研修会」に於いて、研修受講者に「マルトリ予防WEBサイト」を実体験してもらうための資材活用方法を案内した「『マルトリ予防®』と『とも育て®』を学ぼう・広めよう」の視聴覚教材を追加で作成し視聴してもらい、「マルトリ予防モデル」システムの全国普及に向けた体制の強化を目指した。

実施項目②職員個々の対応力向上及び組織的対応力向上の事業計画立案

(1) 目的：研究代表者の研究開発成果を定着させる「マルトリ予防モデル」システム構築の一環として、枚方市、豊中市で各 1 回の合同研修及び大阪こころの健康総合センターにより「プロジェクト報告普及研修」を開催する。

(2) 内容・方法・活動：研究代表者や協働実施者、事業協力者が一堂に会し、COVID-19の流行以降はZoom会議により、事業計画を検討していった。枚方市では研究代表者が講師の「支援者向け合同研修会（第1回)」を開催した。参加者207名のうち、同意を得られた参加者167名及び未受講者支援者83名に、効果検証用の「研修アンケート」を研修前後と3か月後に配布し、回収した。豊中市の「支援者向け合同研修会（第2回)」は延期し、申込制の「オンライン研修会」としてプロジェクト最終月に開催したため、枚方市と同じ条件の「研修用アンケート」回収が難しかったのもあり、本プロジェクトで開発した「支援者向け研修プログラム」「支援者のためのガイドブック」「市民向け啓発資材」資材とともに、「研修用アンケート」を「マルトリ予防WEBサイト」上からQRコードで読み込み、集計する仕組みを実装した。

(3) 結果：「マルトリ予防モデル」システム構築に向け、協働事業会議（サイトビジット）計12回、合同研修及び「プロジェクト報告普及研修」開催に向けた実務者会議を計 12 回)、それに伴う事業協力者市内の多機関が話し合う会議も複数開催した。

(4) 特記事項：本プロジェクトの研究成果「マルトリ予防モデル」システムの一部である「支援者向け研修プログラム」「支援者向けQ&A集」「市民向け啓発資材」等の成果物資材一式は、中核市の「合同研修」、大阪府の「プロジェクト報告普及研修」などの研修会場において、当日配布し、プロジェクト内容の説明とともに活用方法

などを紹介し、「マルトリ予防の普及のきっかけ作り」をする予定であった。しかし COVID-19 の流行による社会情勢の大きな変化により、「プロジェクト報告普及研修」を 100 名の定員に縮小して、予定通り 2020 年 11 月 16 日に開催し、加えて研修内容の一部を録画し、後日、大阪府公式 YouTube で WEB 配信する計画に変更した。さらに、「マルトリ予防モデル」システムの普及が促進されるよう、動画配信と合わせて、受講者が YouTube を視聴する際に、成果物一式が手元にあるよう、事前に配布した結果、143 名が動画研修に参加した。一方、豊中市の合同研修は、2021 年 3 月上旬に延期するとともに、研修申込み受付から、既存の「豊中市の電子申込システム」を活用した YouTube 限定公開による WEB 研修に予定を変更し、さらに 11 日間連続で毎日視聴可能な方法にすることで、430 名が研修受講の申込に至った。WEB 研修では、「マルトリ予防 WEB サイト」の QR コードで「研修用アンケート」に研修前後にアクセスする体験をしてもらい、アンケート回収及び集計するだけでなく、質疑応答の結果を「マルトリ予防 WEB サイト」の「マルトリ Q&A」に反映し、サイトを充実することにつなげていった。その結果、受講申込者 430 名に対し、講演視聴回数 538 回と繰り返し視聴している可能性が考えられた。さらに、職場により複数人数で視聴したケースもあるなど、「マルトリ予防 WEB サイト」が、「マルトリ予防」や「とも育て」の理解を深め、普及するツールとしての多様性が垣間見られた。その一方で、視聴に比べてアンケート回答数が少なかった。事前アンケートを回答しなければ視聴ができないなどの制限や、自分の理解度を確かめ正答率がわかるような仕組みがあれば、事後アンケートを試しに入力してみる人が増え、「マルトリ予防®」と「とも育て®」のさらなる理解につながることが考えられ、「マルトリ予防 WEB サイト」の運営方法の展開に示唆が得られた。

A‘　コンテンツ整備

実施項目③ニーズ調査・アンケート作成と効果検証・分析

(1) 目的：「マルトリ予防®」と「とも育て®」などの認識や理解を確認する「研修用アンケート」を作成し、「支援者向けプログラム」の効果検証を行う。

(2) 内容・方法・活動：本プロジェクトが始まる前の 2018 年 11 月の予備調査を基に、「支援者向けプログラム」の効果検証をする「研修用アンケート」を修正し、2019 年 12 月 4 日の「支援者向け合同研修会（第 1 回）」の研修前後とその 3 か月後の 3 時点で、研修受講群と研修未受講の支援者群に「研修用アンケート」を実施し、回収した。COVID-19 の流行に伴い、豊中市の「支援者向け合同研修（第 2 回）」がプロジェクト終了間際に延期され、「オンライン研修」に計画変更になったため、効果検証実施計画も変更した。

(3) 結果：豊中市の「研修用アンケート」の回収がプロジェクト期間中に実施できなかったため、枚方市で回収された「研修用アンケート」のみを対象として効果検証を

行った。結果は、全体として研修受講によって主観的理解度が高まった。職域および職歴による回答パターンに関しては有意差が認められず、回答パターンは職歴や職域に依存せず同じ傾向がみられた。経験年数や職域にかかわらず、どの職員においても研修受講効果が期待できること、また異なる領域の職員が同じ研修を受講することにより共通理解が得られる可能性が示唆されたことを報告した（椎野ら，2021)。

(4) 特記事項：「支援者向け合同研修会（第1回)」で得らえた結果を基に「研修用アンケート」を修正し、「支援者向け研修プログラム」のひとつとし、「マルトリ予防WEBサイト」上で活用する体制とした。

実施項目④研究成果を踏まえた「支援者向け研修プログラム」の開発と「支援者向け研修」体制の構築

(1) 目的：研究成果を踏まえた「科学的根拠のある支援者向け研修教材」を含めた「支援者向け研修プログラム」を作成し、「支援者向け研修」体制を構築する。

(2) 内容・方法・活動：研究代表者が講師となり、研究成果を踏まえた30分の「視聴覚教材」と、講義内容に関する詳細な情報やポイントを説明した「映像テキストブック」、「マルトリ予防®」と「とも育て®」などの認識や理解を確認する「研修用アンケート」及び、知識、対応力向上を深める「脳科学から考えるマルトリ予防のすすめ」を協働実施者や事業協力者とともに共同開発し、「支援者向け研修プログラム」とした。

(3) 結果：当初は、協働実施者が福井大学と共同で開発した「支援者向け研修プログラム」を活用し、各自治体の実務者が研修講師を担うことが出来るよう、福井大学スタッフが支援していく計画を試みたが、自治体では異動が多く、予算の確保が困難であり、他の自治体に普及していくためにも大きな課題であることが、プロジェクトの会議で見えてきた。さらに「支援者向け研修プログラム」が完成した2020年3月は、COVID-19の流行による緊急事態宣言のため、対面研修による人材育成体制は限定されることから、個人での自己学習やソーシャルディスタンスを確保した少人数での勉強会、多人数でのオンライン研修会など、多様に「マルトリ予防®」と「とも育て®」が学べる体制の構築を目指し「マルトリ予防WEB サイト」を開設した。

(4) 特記事項：COVID-19感染拡大防止のため、対人接触が限定される中、枚方市の「支援援者向け合同研修会（第1回)」で効果検証に協力が得られた参加及び「プロジェクト報告普及研修」、豊中市の「支援者向け合同研修会（第2回)」で、参加機関に手渡しする予定だった成果物資材一式計 800 組は、郵送にて配布した。資材には全て「マルトリ予防WEBサイト」にアクセスするURL やQRコードを掲載し、サイトへのアクセスを容易にすることで、「支援者向け研修プログラム」を活用する

きっかけづくりとし、「マルトリ予防 WEB サイト」を中心とした「マルトリ予防モデル」システムの全国展開体制を構築した（図 1）。

実施項目⑤「マルトリ予防モデル」定着の支援者向け資材・市民向啓発資材の作成

(1) 目的：事業協力者の枚方市と豊中市内に実務者を決め、大阪府こころの健康総合センター主催の「2018 年度地域課題の取組に関する研修」のアンケート結果や、事業協力者が把握した支援者ニーズを反映した「支援者向け Q&A 集」を枚方市が福井大学と協働で作成する。豊中市は、市公式ホームページ上にアップロードできる「市民（養育者）向け啓発資材」を福井大学と協働で作成する。

(2) 内容・方法・活動：「支援者向け Q&A 集」は枚方市、「市民向け啓発資材」は豊中市の実務者を中心の Zoom 会議に、両者の会議に相互に参加することも含め、計 28 回の会議を実施し、資材を開発した。

(3) 結果：枚方市では「子どもの脳とこころがすくすく育つ マルトリに対応する支援者のためのガイドブック」を標題とする「支援者向け Q&A 集」の 32 頁のデータを開発した。内容は「マルトリ」の脳への影響と、妊娠期～高校・大学生（成人前期）までの子どもの発達や行動を、ライフステージごとに「特徴」「対処法」「日頃の関わり」などでまとめ、「とも育て」に必要な支援者の態度と「安全安心に子育てができる地域づくり」に関する内容を含めたものとした。

豊中市は、枚方市のガイドブックをベースに、チラシで配布したり、ポスターに掲示できる「市民（養育者）向け啓発資材」データを 11 種類開発した。内容は「マルトリ」の脳への影響と、「とも育て®」の総論を各 1 種類、妊娠期～中学卒業以降（成人前期）までの子どもの発達や行動に沿ったライフステージ毎の「マルトリ予防®」の各論 9 種類で構成されており、活用先に応じて 2 種類を組み合わせて両面印刷したり、複数組み合わせて冊子様で活用することも可能なものである。

(4) 特記事項：「市民（養育者）向け啓発資材」は、活用者のニーズに合わせて、身近な地域の相談窓口を後から自由に入力記載して印刷できる仕様とした。そのため、豊中市・枚方市の公式ホームページ上にアップロードするだけでなく、「支援者向け研修プログラム」「支援者向け Q&A 集」とともに、「マルトリ予防 WEB サイト」に掲載し、全ての資材がサイトから無料でダウンロード可能なものとした。

実施項目⑥「マルトリ予防モデル」定着に向けた他 PJ との協働体制の構築

(1) 目的：養育者の問題行動の背景が、マルトリによるトラウマの視点でとらえる研修を調整し、開催する。

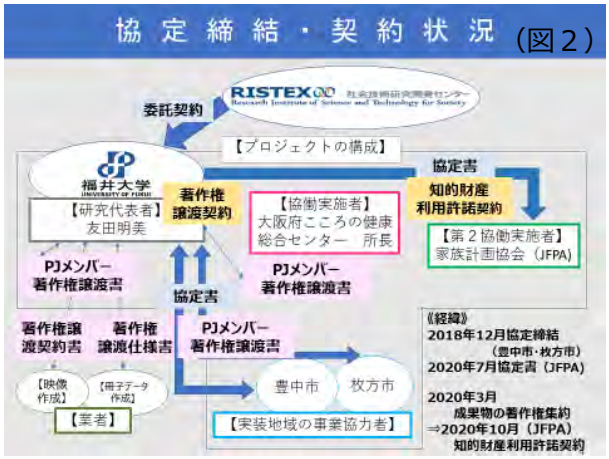
(2) 内容・方法・活動：「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域内の「トラウマへの気づきを高める“人 - 地域 - 社会”によるケアシステムの構築（大岡 PJ）メンバーと 2019 年 2 月 7 日に情報交換し、2020 年 3 月に本プロジェクト研究代表者との合同研修を企画したが、COVID-19 感染拡大により、2021 年 1 月に延期され、オンライン研修として開催された。

B　事業計画の実行のための準備

実施項目⑦大学と中核市の情報共有にかかる契約内容整理

(1) 目的：福井大学と各中核市との情報共有にかかる契約内容を整理し、協定書を締結する。

(2) 内容・方法・活動：本プロジェクトが始まると同時に、「連携・協力事項と役割」「知的財産などの成果」「個人情報の取り扱い」などに関する項目を立てた協定書を実装地域の事業協力自治体と作成し、事業協力自治体の長である豊中市長、枚方市長と研究代表機関福井大学との間で協定書を締結した。本プロジェクトで作成した成果物の著作権は、プロジェクトメンバー及び映像や冊子データなどを作成した業者全てと「著作権譲渡書」を交わし、研究代表者を介して福井大学と「著作権譲渡契約」を締結した（図２）。



(3) 結果：「著作権譲渡契約」を締結の上、全ての成果物の奥付には、著者及び協力者を明記した。

実施項目⑧取り組みを行う体制確保の調整

(1) 目的：プロジェクトで開発した「支援者向け研修プログラム」や「支援者向け Q&A 集」「市民向け啓発資材」
の管理及びそれらを活用した「マルトリ予防モデル」システムを、各市が継続して取り組むための担当部署が確保する。

(2) 内容・方法・活動：多くの自治体が継続して研修を担える担当を置くことが難しいことが議論され、COVID-19 感染拡大による対面研修での人材育成体制の普及限界

を鑑み、公私問わず、誰もが、個人で学習したり、少人数の勉強会や数百人の大規模オンライン研修などを企画し、「マルトリ予防」や「とも育て」が普及できる「マルトリ予防モデル」システムの構築を目指して、「マルトリ予防 WEB サイト（marutori.jp)」を新規開設した。本サイトには、プロジェクトで開発した「支援者向け研修プログラム」や「支援者向け Q&A 集」「市民向け啓発資材」などが掲載され、自治体などに担当部署を確保するのではなく、団体や個人が「マルトリ予防 WEB サイト」に会員登録してマイページを作成することにより、その担当者が異動になっても縦断的に継続してマイページを利用でき、毎回の資材利用申請により、資材の活用状況が蓄積されるシステムとした。また、資材は汎用性があり、職種・職域・領域にかかわらず活用できるため、印刷製本したものをプロジェクト期間中に開催した研修において、資材（見本）を配布し、QR コードから「マルトリ予防 WEB サイト」にアクセスしてもらう案内を実施し、普及のきっかけづくりとした。

(3)結果:大阪府こころの健康総合センターは、「プロジェクト報告普及研修(受講者 100 名に 1 部ずつ)」、全国の精神保健福祉センター（69 か所に 1 部ずつ)、また研修を WEB 配信し（受講者 143 名）に印刷製本した資材（各機関に 1 部ずつ 85 部）を郵送し、「マルトリ予防 WEB サイト」活用のきっかけづくりを行った。さらに、同センターが「マルトリ予防 WEB サイト」に会員登録し、毎年開催する精神保健担当職員の新任転任職員研修のひとつとして、開催することになった。

枚方市は、「支援者向け合同研修会（第 1 回)」で「研修用アンケート」協力が得られた関係機関に資材 250 件を郵送するとともに、市内関連機関 316 件に資材を配布。その他、「マルトリ予防 WEB サイト」に会員登録し、「研修用アンケート」の QR コードをダウンロードし、2020 年 12 月 1 日に、母子保健と健康増進担当課で所内研修実施。2021 年 1 月 26 日に職員向け研修実施。2021 年 2 月 4 日枚方市児童虐待問題連絡会議にて、関係機関に冊子・WEB サイトについて周知した。豊中市は、「支援者向け Q&A 集」と「マルトリ予防 WEB サイト」案内チラシ 363 組を保健所、児童福祉部門、福祉事務所、こども園など児童福祉施設、教育委員会、公立小中学校、市内産科医療機関・内科小児科標榜医療機関、市医師会、市歯科医師会、市薬剤師会、社会福祉協議会、児童民生委員、校区福祉委員などに配布した。研修案内を契機に、様々な機関から問い合わせがあるなど、支援者の関心は高く、職場での人権に関する研修として「マルトリ予防 WEB サイト」を活用した研修を行うことを検討する部署もあり、今後も引き続き市内支援者への周知を継続する。また、市民向け啓発については、市公式ホームページにて、「市民向け啓発資材」を周知するため「マルトリ予防 WEB サイト」のリンクを張るとともに、乳幼児健診や育児相談時などに養育者へそれぞれの月齢にあわせた「市民向け啓発資材」を直接配布する予定である。

(4)特記事項:2020 年 12 月から開始された「ひらかた de オンライン産前産後クラス」

において、「みんなで子育て・赤ちゃんからの防災」というテーマの中で、マルトリ予防の内容を含めた内容を取り扱った。さらに、保護者に一緒に考えてもらうよう「マルトリ予防®」の〇×クイズを実施。2020 年 12 月 1 日に行った、子どもを守る取り組みのプレス発表にて本プロジェクトについて触れた。

実施項目⑨全国展開に向けた福井大学での知財・体制などの整備

(1) 目的:プロジェクトで開発した「支援者向け研修プログラム」「支援者向けQ&A集」「市民向け啓発資材」等の様々な活用方法を蓄積しながら普及する「マルトリ予防モデル」システムが、福井大学の知的財産として管理できる体制を整備する。

(2) 内容・方法・活動：プロジェクト内の研修などで配布された冊子やチラシには全て「マルトリ予防 WEB サイト」に直接アクセスできる URL や QR コードが明記され、サイトのトップページから閲覧できる仕様にした。さらに会員登録し、資材利用申請をすれば、資材は無料でダウンロードできるものとし、「研修用アンケート」は資材活用毎に QR コードが作成され、アクセスするとマイページで集計できるため、報告書などにも活用できるとともに、マイページ内で累積して活用できるようになっている。資材は異なる領域でも汎用性があるため、資材利用申請や「研修用アンケート」で得られた①利用対象や②資材活用事例、③全国への普及状況、④研修効果などの情報を匿名でトップページに集約して視覚化し、閲覧できる仕組みとした。視覚化したデータは、WEB サイトにアクセスした人が職種や領域にかかわらず「マルトリ予防」や「とも育て」の言葉や概念を学習する機会を促すものであり、会員登録や資材利用申請により得た汎用性のある資材を活用すれば、自らが「マルトリ予防」や「とも育て」の言葉や概念を普及していく担い手になり得ることを支えるものである。「マルトリ予防 WEB サイト」を中心に育成された「マルトリ予防」や「とも育て」の言葉や概念を普及する担い手が、地域に継続して普及定着していくことが「マルトリ予防モデル」システムの構築である。

「マルトリ予防モデル」構築に向けては、知財の整理のために、2019 年 4 月には福井大学の産学官連携本部知的財産・技術移転部（以下、知財部）との初回の会議を行い、最初の資材が完成する前に、「著作権」「知的財産利用許諾契約」の方向性を確認していく会議などを計 13 回開催した。同時期に COVID-19 流行拡大による緊急事態宣言が発令されたことも手伝って、研究代表者の福井大学と RISTEX の領域や担当アドバイザー、時には福井大学知財部同席のもと、「マルトリ予防モデル」システムの全国展開に向けた戦略会議を Zoom により計 5 回重ねていった。

(3) 結果：プロジェクト終了後も「マルトリ予防®」と「とも育て®」を全国普及していくために、「マルトリ予防モデル」システムの中心に、成果資材を掲載した「マ

ルトリ予防 WEB サイト」を置くこととし、プロジェクト終了後のサイトの管理運営をふまえ、既に全国規模の普及啓発事業があり、支援者向け研修開催の実績がある JFPA を第 2 の協働事業者として指定し、福井大学と協定を締結した。「マルトリ予防 WEB サイト」は、福井大学と JFPA で新規開発し、掲載する成果資材の活用などについても、両者間で「知的財産利用許諾契約書」と「合意書」を締結し、サイトや資材の活用状況などの福井大学への報告等についても具体的に明記した。これら書類の作成、契約等に向け、時には知財部も同席の Zoom 会議を 16 回開催した。さらに、「マルトリ予防モデル」システムを普及する最初の広報活動として、福井大学広報課が中心のプレス発表を 2020 年 11 月 16 日「プロジェクト報告普及研修」同日午前に開催した。

【マルトリ予防 WEB サイト】集計結果（2021 年 3 月 16 日現在）

訪問ユーザー数（6288 名）・会員数（482 名）

《資材ダウンロード数》

マルトリートメント(マルトリ)が脳に与える影響(映像 167 件)(冊子 221 件)

脳科学から考えるマルトリ予防のすすめ（冊子 227 件）

子どもの脳とこころがすくすく育つ マルトリに対応する支援者のためのガイドブック（冊子 236 件）

《資材利用目的》

個人的知識習得のため（218 件）・研修会で使用（39 件）

(4) 特記事項：資材利用申請の多くが、個人的知識習得としているが、内訳を見てみると数人での勉強会や家族で活用したいなど、多岐に渡っていたことから、個人～少人数の勉強会、大人数の研修会など、多様なニーズに対応できる「マルトリ予防 WEB サイト」に展開できるよう、引き続き検討を重ねていく。

３．定着支援期間中の成果

３－１．目標の達成状況

養育者が子どもを虐待する危機的状況になる前の「マルトリ」に、周囲が気づき「とも育て」の意識で支援する「マルトリ予防」の言葉と概念を、全国に普及するための「マルトリ予防モデル」システムが、「マルトリ予防 WEB サイト」中心に構築されたことは、当初のプロジェクトの目標を十分達成した結果といえる。

「マルトリ予防 WEB サイト」には、プロジェクトで開発した「支援者向け研修プログラム」「支援者向け Q&A 集」「市民向け啓発資材」などの資材が掲載され、以下の内容を学習し、普及できる内容になっている。全ての資材は、母子保健・精神保健・児童福祉など、あらゆる領域で、職種・専門家だけではなく、全ての市民が共有できる資材になっている。

- 養育者によるマルトリ（しつけという名の体罰、暴言や脅し、配偶者間 DV を子どもに見聞きさせるなど）が子どもの脳や発達に好ましくない影響を与える

- 幼少期のマルトリは成人後の心身の健康にまで影響する
- 一見健康に見える家族や大人であっても、何らかのマルトリを受け、中にはトラウマになっている可能性があることを理解し、対応することが大切である（トラウマ・インフォームドケアの概念）
- 親と子どもの適切なかかわり方（ほめて育てる）が大切なことを知り、対応することが、子どもへのマルトリ予防及び成人後の心身の疾患の予防につながる

COVID-19 流行拡大により、当初予定していた対面研修が延期や定員縮小で開催される中、並行して「大阪公式 YouTube」や「豊中市電子申込システム」を活用した申込制 YouTube 限定公開など、既存のネットワークを利用したオンライン研修が開催された。特に豊中市の研修は、申し込み方法は「豊中市電子申込システム」を活用し、研修申込者 430 名の「研修用アンケート」は「マルトリ予防モデル」システムを活用して回収・集計する等、「マルトリ予防モデル」システムの活用事例のひとつとなった。同様に、2020 年 11 月に開設された「マルトリ予防 WEB サイト」には、活用事例（図３）が集まる一方、会員登録や活用方法に関する問い合わせがいくつも聞かれたことから、豊中市の「オンライン研修会」に於いて、研修受講者に「マルトリ予防 WEB サイト」を実体験してもらうための「『マルトリ予防®』と『とも育て®』を学ぼう・広めよう」の視聴覚教材を追加で作成し視聴してもらい、「マルトリ予防モデル」システムの全国普及に向けた体制を強化していった。

教材活用方法（参考）　（図３）

- 保護者支援のためのスキルアップ研修を開催したい
- ヨーガの指導をしております。そこで役立てたい
- 小児科クリニックでの子育て支援教室で参考にしたい
- 学校便りや保健便り、保護者会資料などで出典明記の上で活用したい
- 母子保健推進員の研修を計画中であり、日頃の相談事業や保育士との意見交換で、保護者が感情的な態度で子どもに接してしまう事例が目立つことが話題になるので学びたい
- 月１回程度のリトミック講師です。（中略）子ども・親が安心して過ごせるよう、スタッフに実践を通して伝える事で、「マルトリ」「とも育て」の意識が広がるように努めたい
- マルトリ専門ライターとして、雑誌・WEB等にマルトリ予防の啓蒙記事を書きたいと考えています
- 妻との子育てに役立てたい

また当初は、母子保健の担当が主に担っていた豊中市、枚方市の「支援者向け Q&A 集」「市民向け啓発資材」の作成や「支援者向け合同研修会」の企画・運営は、資材が妊娠期から成人前期まで扱っていることもあり、市の児童福祉や精神保健部門において実際に相談業務に従事する現場職員から意見をもらうとともに、「市民向け啓発資材」をチラシとして配布するにあたり、市内相談窓口の掲載について調整する等、領域を超えて「マルトリ®」「とも育て®」などの共通言語の認識を深め、子育てにおけるマルトリ予防と子育て支援におけるそれぞれの役割の理解を深めることにつながった。資材には全て「マルトリ予防 WEB サイト」にアクセスできる URL や QR コードが掲載され、「支援者向け Q&A 集」は豊中市、枚方市内の支援機関に郵送されるとともに、大阪府こころの健康総合センターから、大阪府内の関連部署及び全国の精神保健福祉センターに配布された。「市民向け啓発資材」チラシは、COVID-19 流行拡大により作成が遅れ、配布がプロジェクト終了後にな

ったが、乳幼児健診だけでなく、小学校・中学校などの教育現場から子育て中の養育者に配布されるとともに、最終受益者である（養育者を含む）市民に配布することが決定している。

３－２．定着支援期間中の成果

３－２－１．定着の核となる研開発成果

「養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステムの構築」黒田 PJ 分担研究グループ（福井大学：友田）で創出された、以下 3 点をわかりやすくまとめた「支援者向け研修プログラム」「支援者向け Q&A 集」「市民向け啓発資材」「支援者向け研修教材」と、全ての資材が掲載された「マルトリ予防 WEB サイト」及び、それらを作成、事業展開するまでに得られた公私異領域機関の連携と協働体制である「マルトリ予防モデル」システムが研究開発成果である。

①「子ども虐待の発生メカニズムの科学的根拠」の成果物と、関連する国内外の研究成果

②「子どもを健やかに育むために～愛の鞭ゼロ作戦～（2016 年厚生労働省）」に本グループが既に発表、提供した研究成果

③協働実施者がコーディネートのもと、研究代表者グループと大阪府内の保健福祉行政・医療関係者及び関連研究者延べ 81 名で 2 回にわたり開催した意見交換会で得られた「マルトリ」や「とも育て」などの概念に対する認知度の低さと、同じ言葉でも専門領域（母子保健、児童福祉、精神保健など）による認識の差がある現状から、子育て家庭のマルトリ予防と子育て家庭が抱える課題への対応力向上のために「マルトリ予防」「とも育て」の言語と概念を共通認識することが組織間、自治体間の垣根を越えた協同体制につながるという結論

３－２－２．事業計画

A0 事業の実施期間

3～6 年間

A1 事業の理念と目的

虐待より広義の「マルトリ」は、全ての家庭に起こり得る身近なものであり、科学的知見からも、脳の発達や将来の心身の健康にも影響することがわかっている。全ての市民が「マルトリ」の概念を共通理解し、気づき、「とも育て」の意識でかかわることで、養育者が「安全安心に子育てができる地域づくり」を理念に、「マルトリ予防®」「とも育て®」の言語と概念を全国に普及させることを目的とする。

A2 事業の具体的な内容

「マルトリ」や「とも育て」などの概念に対する認知度の低さや、同じ言葉でも専門

領域（母子保健、精神保健、児童福祉など）により、その認識に差があるという現状から、「マルトリ予防®」「とも育て®」などの短い言葉を使用し、領域や、職種・専門性にかかわらずに共通言語・概念として広めるためにプロジェクトで開発した「支援者向け研修プログラム」「支援者向け Q&A 集」「市民向け啓発資材」などを活用した「マルトリ予防モデル」システムを全国に普及する。

A3 事業実施体制

プロジェクトで開発した「支援者向け研修プログラム」「支援者向け Q&A 集」「市民向け啓発資材」などの資材の全ての著作権は、一般社団法人日本家族計画協会（JFPA）が福井大学と独占利用許諾の「知的財産利用許諾契約書」を締結し、協会がもつ全国規模の普及啓発事業や支援者向け研修などを通して「マルトリ予防モデル」システムの中心となる「マルトリ予防 WEB サイト」の活用を紹介し、「マルトリ予防®」「とも育て®」の共通言語や概念を全国に普及していく。資材の①利用対象、②資材活用事例、③全国への普及状況、④研修効果などの情報は、JFPA がトップページに集約して視覚化し、閲覧できるようにし、「合意書」に基づいた報告を福井大学にしていく。

A4 活用する資源

１）一般社団法人日本家族計画協会（JFPA）

①Adolescent（思春期保健の推進を図る）②Abortion（人工妊娠中絶の防止）③Access（どこでも誰もがサービスを受けられる）④Advocacy（啓発・提言活動）⑤AIDS（STI 及び HIV／エイズの予防）⑥Ageing（高齢社会への対応）⑦Abuse（児童虐待の防止）のスローガン（7 セブン A）を掲げる JFPA が持つ以下啓発事業及び研修体制など

１．母子手帳交付や両親学級等で市区町村や医療機関で配布する「妊娠中から考えるお産のあとのあなたと赤ちゃんの健康」（無償）への記事掲載（年間 47 万部）

２．　全国 7 ブロックで母子保健関係者に開催する研修で紹介
（年間約 1,500 名参加で、10 年間で全都道府県一巡）

３．健やか親子 21 全国大会（愛育会員、母子保健推進員等が毎年 1,500 名参加）

４．全国すべての自治体、保健所、母子保健・家族計画関係者等に配布する機関紙「家族と健康」（毎月 1 万部発行　2021 年 3 月 804 号）

５．JFPA 既存の思春期保健セミナー（保健師・助産師・看護師・養護教諭など思春期の子どもの支援者が 3 日間の研修を受け思春期保健相談士に認定 現在 9,100 名に年 2 回通信を発行）

６．年間 60～70 本開催される研修セミナーで紹介

７．保健指導ノートの資料 1 頁に「マルトリ予防 WEB サイト」の案内を掲載　等

２）「支援者向け研修プログラム」「支援者向け Q&A 集」「市民向け啓発資材」を手にし

た人は、資材の URL、QR コードから「マルトリ予防 WEB サイト」にアクセス可能
3)研究開発者が講演会などで「マルトリ予防 WEB サイト」を案内　等

A5 他事業との差別化

現在多くの自治体が採用している「子ども虐待予防のための保健師活動マニュアル（厚生労働省 2002)」「子ども虐待対応の手引き（厚生労働省 2009)」は、母子保健師対象、児童福祉・児童相談所職員対象と領域別になっている。精神保健分野の「妊産婦メンタルヘルスケアマニュアル（日本産婦人科医会 2017)」は、産婦人科医、精神科医、小児科医、助産師、保健師、看護師と、異なる専門職種を対象とはしているが、医療職を対象にしたものであり、母子保健、児童福祉、精神保健といった複数の専門領域対象に、マルトリ予防の視点で作成されたマニュアルは見あたらない。さらに、多くのマニュアルでは、「虐待リスク」を得点化しスクリーニングする体制を取っており、かえって重篤な虐待を見過ごす可能性があるだけでなく、逆に、子育て困難感を訴えた家族では「虐待リスク」が高くなり、養育者が追い込まれるという悪循環を引き起こす危険も指摘されている（上野 2017)。

本プロジェクトの「マルトリ予防モデル」システムは、虐待リスク家庭のスクリーニングではなく、マルトリは全ての家庭で起こり得るものであり、支援者自身も含めた全ての大人が「マルトリ」に「気づき」「理解」し、養育者や支援者を「とも育て」で支援する「マルトリ予防」を提案するモデルである。具体的には、マルトリ家族にかかわる全ての領域の支援者が「マルトリ予防」と「とも育て」などの共通言語・概念を、科学的根拠に基づいた共通の資材により学習することで、領域間の連携を強化するものである。最終受益者である子育て家族の父母、祖父母、その家族を取り巻く地域の一般市民全てが、「とも育て」が「マルトリ予防」につながることを理解し、ボトムアップ的に普及することで、養育者が「安全安心に子育てができる地域づくり」が全国に普及し、深刻な虐待を軽減しようとするものである。

次に、本プロジェクトの「マルトリ予防モデル」システムは、「マルトリ予防 WEB サイト」を中心に、誰もが「マルトリ予防」と「とも育て」を学習でき、誰もが普及する担い手になり得るシステムである点である。「マルトリ予防 WEB サイト」に初めてアクセスした人も「マルトリ予防®」と「とも育て®」を学習し、その言葉や概念を理解することで、「マルトリ予防®」「とも育て®」を普及することができるのである。汎用性のある全ての資材は、新規開設の「マルトリ予防 WEB サイト」上で無料視聴できるだけでなく、会員登録（マイページ作成）の上、資材利用申請をすると、資材が無料でダウンロードでき、個人学習や小規模の勉強会、大規模な研修会など、様々な場面で活用可能なものである。マイページは、個人でも機関としてでも登録可能であり、資材の利用、活用状況、研修用アンケート結果などが蓄積でき、報告書等が必要な自治体や企業では、その作成の一助にもなる。さらに、資材利用申請で得られた利用対象、資材活用事例、全国への普及状況、研修

効果などは、匿名で集計され、トップページに視覚化される。視覚化されたデータや活用事例は、専門性の有無や職種、職域にかかわらず、資材を活用すれば、自らが「マルトリ予防®」と「とも育て®」の言葉や概念を普及する担い手となり得ることを促すものであり、「マルトリ予防 WEB サイト」を中心とした普及の循環は、全国に展開していくのである。

A6 事業遂行のための資金と要員の調達計画

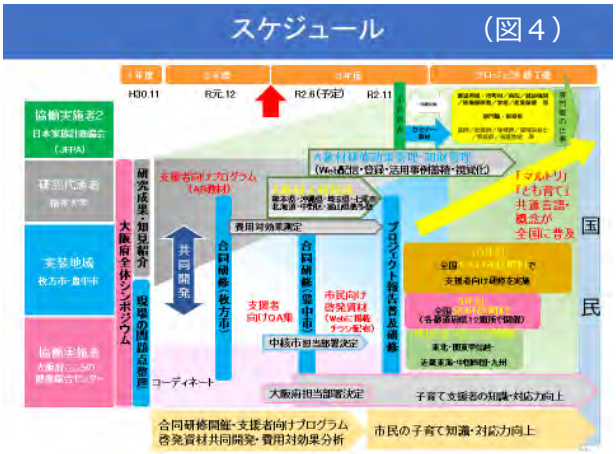
JFPA を第 2 の協働事業者とし、「著作権譲渡契約書」締結により、福井大学と JFPA が管理運営を担う。

A7 今後の活動スケジュール

COVID-19 感染の配慮の必要性から大規模な対面研修開催は縮小、減少する一方、オンライン研修や勉強会が多数開催されるようになってきており、本プロジェクトで作成された研究代表者が講師の 30 分視聴覚動画を含む「支援者向け研修プログラム」は、オンライン研修や勉強会での活用がさらに期待できるものである。JFPA の既存の普及啓発事業や対面・オンライン研修、研究代表者の WEB 講演活動により、「マルトリ予防 WEB サイト」の会員登録数、資材利用申請数は日々増加更新している。

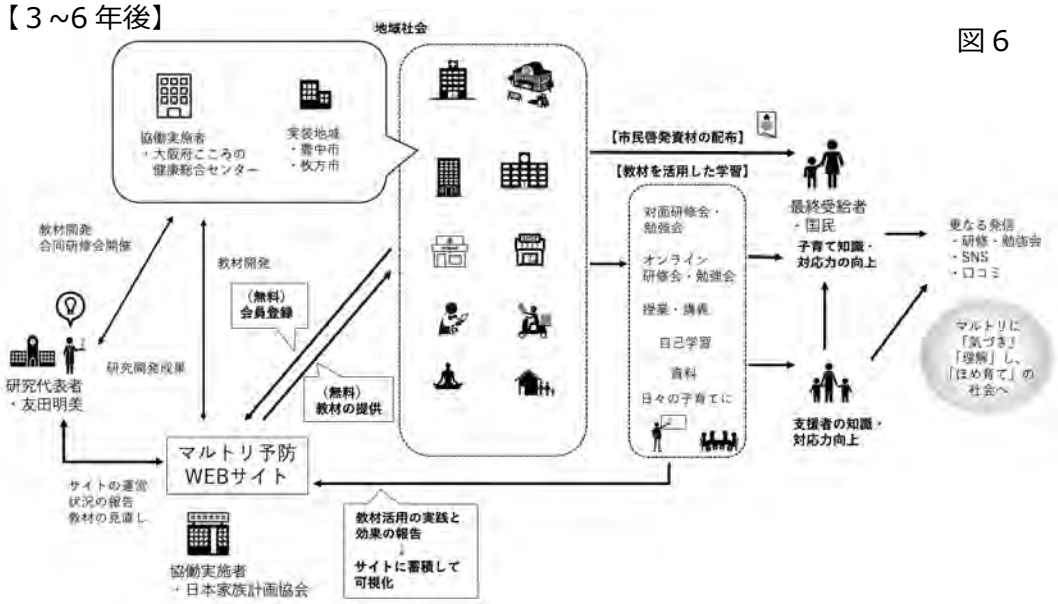
2021 年 11 月には厚生労働省が主催の「健やか親子 21 全国大会」で研究代表者が講師を務めることも決まり、下記のような主要機関へ「マルトリ予防 WEB サイト」の案内が発信されている。（全国保健所長会メーリングリスト・オンライン市役所・全国精神保健福祉センター・全国保健師長会・日本ボーイスカウト連盟・日本漫画家協会など、多数）

A8 上記を踏まえ、現時点での事業の全体像及び事業実施期間終了時点での全体像



【３~6 年後】

図６



３－２－３．事業計画実施のための準備

B1 COVID-19 感染拡大禍の協働実施者及び実装地域の事業協力者との交渉や調整

成果資材作成のためのオンライン会議等の開催に向けて、行政の関係機関に PC 及び無線 LAN ルータを貸与するとともに、「マルトリ予防 WEB サイト」新規開設に向けたやり取りを通して、民間機関の第 2 の協働事業者 JFPA には「マルトリ予防®」「とも育て®」の理解や、行政等の支援者が活用しやすいサイト作りに向けて、交渉や調整を行った。

B2 プロジェクトの成果資材の著作権は、独占利用許諾の「知的財産利用許諾契約書」により、協働実施者 JFPA が「転載・教材利用許可願」等により、再利用許諾も管理することになっている。

B3 第 2 の協働実施者である JFPA が「マルトリ予防 WEB サイト」を運営管理するにあたり、JFPA の全職員が「マルトリ予防 WEB サイト」に対応できる社内研修を実施予定。併せてプロジェクトに参画した協働実施者、実装地域の事業協力者も含め、プロジェクトで印刷製本した成果資材を配布した機関や研究者の WEB 講演などの受講者などが、「マルトリ予防 WEB サイト」に会員登録しマイページを作成し、「マルトリ予防®」「とも育て®」の言葉や概念の普及の担い手として「マルトリ予防モデル」システムの普及を継続する。

B4 「7 セブン A」をスローガンに掲げる第 2 の協働実施者である JFPA が、成果物の著作権について福井大学と独占利用許諾の「知的財産利用許諾契約書」を締結し、「マ

ルトリ予防 WEB サイト」を新規開設し、運営管理を担う。

B5　成果物の一部の完成が見えてきた 2020 年 2 月 26 日を初回に、福井大学知的財産・技術移転部（以下、知財部）に「著作権及びマルトリ予防 WEB サイト」開設に向けた相談を開始した。まずは、成果物の著作権について、関わった全ての人から「著作権譲渡書」を受け取り、福井大学が著作権をもつよう「著作権譲渡契約」を締結した。さらに共通言語として全国に普及したい「マルトリ予防」「とも育て」等の言葉を商標登録した（2020 年 6 月 4 日申請⇒2020 年 11 月 16 日登録）。並行して福井大学は、JFPA がプロジェクトに参画するための協定を締結し、第 2 の協働事業者となった JFPA が「マルトリ予防 WEB サイト」を中心とした「マルトリ予防モデル」システムを全国に普及展開していくために、成果物の著作権について独占利用許諾による「知的財産利用許諾契約書」を福井大学と締結した（2020 年 10 月 16 日）。その間、研究室と知財部（内容によって RISTEX 領域や JFPA も参加）の会議を計 12 回開催し、RISTEX 領域との戦略会議を計 3 回開催した。その際に成果物にクリエイティブコモンズ掲載の議題も出たが、成果物の内容上「著作権に関する標記」を全ての資材に入れることで皆の合意を得た。

B6　福井大学がもつ成果物の著作権を JFPA に独占利用許諾の「知的財産利用許諾契約書」を締結する中で、研究開発成果に起因する事故は研究代表者が著作権を譲渡した福井大学が責任を担う（例えば、利用許諾の範囲など）、一方、研究開発成果の使い方に起因する事故は第 2 の協働実施者側が責任を担う（例えば、再利用許諾など）、さらに事故の内容によっては福井大学と JFPA が別途協議する（侵害・保証など）など、具体的に標記してある。

３－２－４．その他

「マルトリ予防 WEB サイト」は、「マルトリ予防®」「とも育て®」の概念等を普及するだけでなく、異動が多く、研修担当が置きづらい行政などの自治体にとって、所属機関として「マルトリ予防 WEB サイト」に会員登録してマイページを作成することにより、担当者が変更になっても、マイページ内で後任者に引継ぎが出来、研修資材やその活用法を自学習できるサイトとしても期待できるものとなった。

４．領域目標達成への貢献等

４－１．領域目標達成への貢献

(A)　子どもの頃の虐待が、成人後の心身の疾患に影響する科学的根拠も踏まえると、特別なハイリスク家庭をスクリーニングする体制ではなく、全ての家庭で身近に起こり得る大人から子どもへの避けたいかかわり「マルトリ」の概念で、子ども

の有無にかかわらず、全ての市民が「理解し」「気づく」社会を目指す「マルトリ予防モデル」は、領域目標の「発見・介入しづらい空間・関係性における危害や事故の予防と低減に資する新たな手法」に貢献するものである。

(B) 虐待予防を「マルトリ予防®」でとらえることにより、「マルトリ予防®」は、子どもの発達支援にとどまらない全市民の心身の健康に大きく影響する社会の問題であり、全市民が「マルトリ予防®」を自分の問題として捉え、「マルトリ」に早期に「気づき」「とも育て®」する社会を目指す「マルトリ予防モデル」は、市民（養育者）が「安全安心に子育てができる社会」を目指すことに他ならない。少子高齢化が加速度的に進む我が国において、次世代を担う子どもたちの心身の健康な発達を保障するためにも「マルトリ予防モデル」の普及は、社会が取り組むべき制度・政策の実現可能な優先課題として提示できるものと考える。

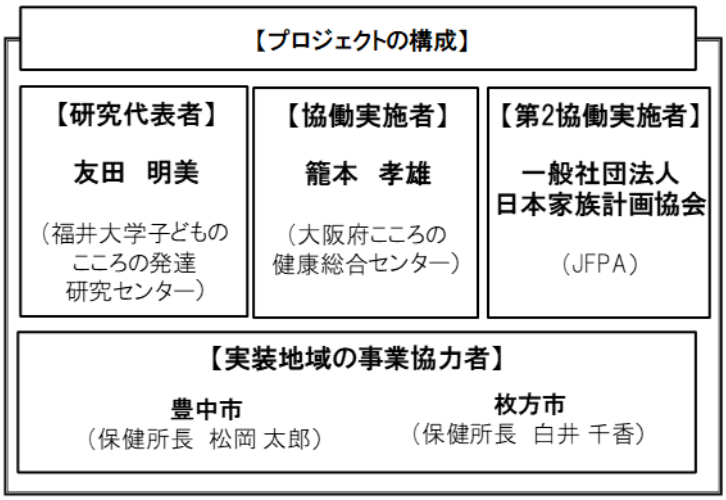
(C) 「マルトリ予防モデル」は、専門資格の有無にかかわらず、既存の地域システムの全市民（より地域に近い民生委員や母子保健推進員といった支援者や市民など）を中心にボトムアップ的に「マルトリ予防®」の概念を「理解し」「気づき」、地域の「とも育て®」で支援していくことを目指すものであり、年齢、性別、職種等にかかわらず、「マルトリ予防®」と「とも育て®」の言語や概念が様々なネットワークで循環的に全国に普及していくことを期待するシステムとして構築するものである。

４－２．その他

- 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域内の「トラウマへの気づきを高める“人 - 地域 - 社会”によるケアシステムの構築（大岡 PJ）メンバーと 2019 年 2 月 7 日に情報交換し、2020 年 3 月に本プロジェクト研究代表者との合同研修を企画したが、COVID-19 感染拡大により 2021 年 1 月に延期し、オンライン研修として開催した。
- 2020 年 10 月 7～9 日の RISTEX 領域全体会議にオンラインにて参加し、仲 PJ、石塚 PJ とパネルディスカッションを開催した。

５．研究開発の実施体制

５－１．研究開発実施体制の構成図



５－２．研究開発実施者

（1）福井大学グループ（リーダー氏名：友田明美）

役割：「支援者向け研修プログラム」を開発するために「①科学的根拠のある支援者向け研修教材」「②視聴覚教材とその解説」を提供し、事業全体の実行管理を担った。事業の効果を検証するため、研修会のデザインやプロセス、アウトカムの設定を行った。また研修前後における効果検証のため、評価項目について検討を行い、「③研修用アンケート」を作成・実施し、効果検証を行い、プログラムの一つとした。全国普及に向けた「マルトリ予防モデル」システム構築に向けて「マルトリ予防 WEB サイト」を新規開設した。

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
友田　明美	ﾄﾓﾀﾞ ｱｹﾐ	福井大学	子どものこころの発達研究センター	教授
藤澤　隆史	ﾌｼﾞｻﾜ ﾀｶｼ	福井大学	子どものこころの発達研究センター	准教授
島田　浩二	ｼﾏﾀﾞ ｺｳｼﾞ	福井大学	子どものこころの発達研究センター	助教
滝口　慎一郎	ﾀｷｸﾞﾁ ｼﾝｲﾁﾛｳ	福井大学	医学部附属病院子どものこころ診療部	特命助教
椎野　智子	ｼｲﾉ ﾄﾓｺ	福井大学	子どものこころの発達研究センター	特命助教
榊原　信子	ｻｶｷﾊﾞﾗ ﾉﾌﾞｺ	福井大学	子どものこころの発達研究センター	学術研究員
矢尾　明子	ﾔｵ ｱｷｺ	福井大学	子どものこころの発達研究センター	学術研究員
伊達岡　五月	ﾀﾞﾃｵｶ ｻﾂｷ	福井大学	子どものこころの発達研究センター	学術研究員

(2) 大阪府こころの健康総合センターグループ（リーダー氏名：籠本孝雄）

役割：中核市及び府域の関係機関の連絡調整、研修体制構築等、事業全体の調整を行った。具体的には「④支援者向け Q&A 集」「⑤市民向け啓発資材」の開発に向け、実装地域の実務責任者の決定及び役割分担、本プロジェクト終了後の「マルトリ予防モデル」システム普及のきっかけづくりとして、「プロジェクト報告普及研修」を開催した。

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
笹井　康典	ｻｻｲ ﾔｽﾉﾘ	大阪府総務部	人事局　企画厚生課	理事
籠本　孝雄	ｶｺﾞﾓﾄ ﾀｶｵ	大阪府こころの健康総合センター		所長
平山　照美	ﾋﾗﾔﾏ ﾃﾙﾐ	大阪府こころの健康総合センター		参事
松川　祥恵	ﾏﾂｶﾜ ｻﾁｴ	大阪府こころの健康総合センター	事業推進課	課長
鹿野　勉	ｼｶﾉ ﾂﾄﾑ	大阪府こころの健康総合センター	医療審査課	課長
原　るみ子	ﾊﾗ ﾙﾐｺ	大阪府こころの健康総合センター	相談支援・依存症対策課	課長
小椋　千聡	ｵｸﾞﾗ ﾁｻﾄ	大阪府こころの健康総合センター	事業推進課	総括主査
甲田　恵美	ｺｳﾀﾞ ﾒｸﾞﾐ	大阪府こころの健康総合センター	事業推進課	主査
平川　はやみ	ﾋﾗｶﾜ ﾊﾔﾐ	大阪府こころの健康総合センター	事業推進課	技師
浅田　留美子	ｱｻﾀﾞ ﾙﾐｺ	大阪府健康医療部	地域保健課	課長
上野　千佳	ｳｴﾉ　ﾁｶ	大阪府健康医療部	地域保健課	参事
山本　祐子	ﾔﾏﾓﾄ　ﾕｳｺ	大阪府健康医療部	健康医療総務課	参事
田中　由美	ﾀﾅｶ　ﾕﾐ	大阪府福祉部	家庭支援課	課長

(3) 豊中市グループ（リーダー氏名：松岡太郎）

役割：福井大学が提供した①②の内容を踏まえて、現場職員のニーズを反映する双方向のやり取りができる『実務者』を選出し、支援者や子育て家庭、地域市民に「適切な養育のあり方や親と子のかかわり方」を普及啓発するために活用できる「④支援者向け Q&A 集」や、「⑤市民向け啓発資材」を開発し、『支援者向け研修システム』

の構築を推進する。

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
松岡　太郎	ﾏﾂｵｶ ﾀﾛｳ	豊中市健康医療部 豊中市保健所		部長（兼） 所長
松浪　桂	ﾏﾂﾅﾐ ｶﾂﾗ	豊中市健康医療部 豊中市保健所	母子保健課	課長
山羽　亜以子	ﾔﾏﾊ ｱｲｺ	豊中市健康医療部 豊中市保健所	母子保健課	主幹
岸田　久世	ｷｼﾀﾞ ﾋｻﾖ	豊中市健康医療部 豊中市保健所	健康政策課	主幹
中田　三千代	ﾅｶﾀ ﾐﾁﾖ	豊中市健康医療部 豊中市保健所	母子保健課	副主幹
茂　千佳子	ｼｹﾞ ﾁｶｺ	豊中市健康医療部 豊中市保健所	母子保健課	主査
関　亮子	ｾｷ ﾘｮｳｺ	豊中市健康医療部 豊中市保健所	母子保健課	主事
冷泉　薫	ﾚｲｾﾞﾝ ｶｵﾙ	豊中市健康医療部 豊中市保健所	母子保健課	主事
稲野　こころ	ｲﾅﾉ ｺｺﾛ	豊中市健康医療部 豊中市保健所	母子保健課	
桝谷　和海	ﾏｽﾀﾆ ｶｽﾞﾐ	豊中市健康医療部 豊中市保健所	母子保健課	

（4）枚方市グループ（リーダー氏名：白井千香）

役割：福井大学が提供する①②の内容を踏まえて、現場職員のニーズを反映する双方向のやり取りができる『実務者』を選出し、支援者や子育て家庭、地域市民に「適切な養育のあり方や親と子のかかわり方」の普及啓発に活用できる「④支援者向けQ&A集」や、「⑤市民向け啓発資材」を開発し、『支援者向け研修システム』の構築を推進する。

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
白井　千香	ｼﾗｲ ﾁｶ	枚方市健康福祉部 保健所		所長
村上　朋子	ﾑﾗｶﾐ ﾄﾓｺ	枚方市健康福祉部	地域健康福祉室 母子保健担当	課長
奥崎　裕子	ｵｸｻﾞｷ ﾕｳｺ	枚方市健康福祉部	地域健康福祉室	課長代理

			母子保健担当	
清水　祐子	ｼﾐｽﾞ　ﾕｳｺ	枚方市健康福祉部	地域健康福祉室 母子保健担当	係長
佐々木　美和	ｻｻｷ　ﾐﾜ	枚方市健康福祉部 保健所	保健医療課	係長
勇　佳那	ｲｻﾐ　ｶﾅ	枚方市健康福祉部	地域健康福祉室 母子保健担当	主任
中嶋　果奈栄	ﾅｶｼﾞﾏ　ｶﾅｴ	枚方市健康福祉部	地域健康福祉室 母子保健担当	主任

（5）一般社団法人日本家族計画協会グループ（JFPA:リーダー氏名：青田陽）

役割：「マルトリ予防 WEB サイト」を福井大学と共同で新規開設し、管理運用も担う。JFPA の既存の普及啓発事業や研修、研究開発者の講演などを通じて紹介されたサイトを中心とした「マルトリ予防モデル」システムを全国に普及していく。

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
青田　陽	ｱｵﾀ　ﾖｳ	一般社団法人日本家族計画協会	リプロ・ヘルス事業部	部長
飯塚　勉	ｲｲﾂﾞｶ　ﾂﾄﾑ	一般社団法人日本家族計画協会	リプロ・ヘルス事業部	主任
石本　暉乃	ｲｼﾓﾄ ｱｷﾉ	一般社団法人日本家族計画協会	リプロ・ヘルス事業部	主事補

５－３．研究開発の協力者

氏　名	フリガナ	所　属	役職（身分）	協力内容
樋口　人志	ﾋｸﾞﾁ ﾋﾄｼ	福井大学産学官連携本部知的財産・技術移転部	特命教授（技術移転コーディネータ）	「マルトリ予防モデル」システム開発に向けた成果物の著作権、知的財産利用許諾、商標登録における協定、契約案作成への助言
中山　淑恵	ﾅｶﾔﾏ ﾖｼｴ	福井大学　産学官連携本部知的財産・技術移転部	URA（研究推進課研究企画管理・知的財産主査）	「マルトリ予防モデル」システム開発に向けた成果物の著作権、知的財産利用許諾、商標登録などの書類作成

				及び申請手続きなど

機関名	部　署	協力内容
豊中市	健康医療部豊中市保健所　保健予防課 精神保健係 こども未来部　こども相談課 市民協働部　くらし支援課	市民向け啓発資材の作成 市民向け啓発資材への助言(精神保健) 市民向け啓発資材への助言(児童福祉) 市民向け啓発資材への助言(こども・若者育成支援)

６．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

６－１．社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

６―１―１．プロジェクトで主催したイベント（シンポジウム・ワークショップなど）

年月日	名　称	場　所	概要・反響など	参加人数
2019/12/4	枚方市児童虐待問題連絡会議関係機関向け研修「マルトリ(困った子育て)が脳に与える影響」	輝きプラザきらら（枚方市）	「マルトリ予防モデル」システムを構築するために、研究代表者が講師の合同研修を開催	207 名
研修会当日：2020/11/16 後日動画配信：2020/12/24 日~2021/ 1 /22	令和２年度精神保健福祉業務従事者研修「地域課題の取組みに関する研修」その人を理解することから始まる支援～共通認識と連携による支援をめざして～	大阪府庁新別館北館 4 階多目的ホール（大阪府）	研究代表者が「マルトリ予防」、外部講師が「トラウマ・インフォームド・ケア」の講演を行い、合わせて「プロジェクト報告」を行った。COVID-19 感染拡大に伴い、対面研修は関連部署から１～2 名に限定して開催。他受講希望者に対しては「大阪公式 YouTube」で、後日講義内容を配信した。	当日（100 名） オンライン（143 名）
動画配信：2021/3/9~3/19	豊中市母子保健課 WEB 講演会「脳科学から考えるマルトリ予防」報告「マルト	オンライン研修会	COVID-19 感染拡大に伴い、研究代表者が講師の「マルトリ予防」の講演と「マルトリ予防	研修申込者 430 名 講演視聴 538 回

	リ予防・とも育てを学ぼう広めよう」		WEB サイトの活用方法」を事前に録画し、オンライン研修として開催。既存の「豊中市電子申込システム」を用いた申込制による YouTube 限定公開と「マルトリ予防 WEB サイト」上の研修用アンケートを活用する実装を行った。研修への質問はマルトリ予防 WEB サイト上にも掲載活用する予定である。	サイト活用法視聴 187 回 事前アンケート回答数 185 名 事後アンケート回答数 111 名

６―１―２．書籍、DVD など論文以外に発行したもの

(1) 書籍

・友田明美、『脳を傷つけない子育て』、河出書房新社、2019 年 2 月

・友田明美、『実は危ない！その育児が子どもの脳を変形させる』、PHP 研究所、2019 年 6 月

・友田明美、『親の脳を癒やせば子どもの脳は変わる』、NHK 出版、2019 年 11 月

(2)動画教材

・講師：友田明美、マルトリートメント(マルトリ)が脳に与える影響、福井大学子どものこころの発達研究センター、2020 年 3 月 31 日

(3)啓発資材

・著者：友田明美、協力：福井大学子どものこころの発達研究センター（椎野智子・榊原信子・矢尾明子・藤澤隆史・島田浩二・滝口慎一郎）・大阪府こころの健康総合センター・豊中市保健所・枚方市保健所、マルトリートメント（マルトリ）が脳に与える影響　映像テキストブック、福井大学子どものこころの発達研究センター、2020 年 3 月 31 日

・著者：島田浩二・矢尾明子・友田明美、協力：福井大学子どものこころの発達研究センター（藤澤隆史・笠羽涼子・椎野智子・牧田快・榊原信子・滝口慎一郎・久保下亮)、大阪府こころの健康総合センター・豊中市保健所・枚方市保健所、脳科学から考えるマルトリ予防のすすめ　－地域社会みんなでともに育ち合うために、福井大学子どものこころの発達研究センター、2020 年 3 月 31 日

・著者：榊原信子・椎野智子・友田明美、協力：福井大学子どものこころの発達研究センター（藤澤隆史・滝口慎一郎・島田浩二・矢尾明子)・大阪府こころの健康総合センター・豊

中市保健所・枚方市保健所、子どもの脳とこころがすくすく育つ マルトリに対応する支援者のためのガイドブック、福井大学子どものこころの発達研究センター、2020 年 3 月 31 日
(4)市民啓発資材
・協力：福井大学子どものこころの発達研究センター・大阪府こころの健康総合センター・豊中市保健所・枚方市、計 11 パターン（総論①・総論②・妊娠期・乳児期前半・乳児期後半・1～2 歳・3～4 歳・5～6 歳、小学校低学年、思春期、中学校卒業後）、2021 年 3 月 31 日

６―１―３．ウェブメディア開設・運営

(1)マルトリ予防 WEB サイト（https://marutori.jp）、2020 年 11 月 16 日開設

同サイトのアクセス数、閲覧数は 2021 年 3 月 16 日までに 6288 件に達した。様々な支援者が活用することができ、「マルトリ予防」と「とも育て」に貢献できた。以下に具体例を示す。

1）（ある学校関係の支援者から）

継父から心理的虐待を受けていた中 1 年、2 年の姉妹を児童相談所への保護まで繋げられました。心理的虐待は目に見えないし、証拠も残らないため、児童家庭課も動きが鈍くて･･･。でも私は研修資材などで、どれだけ罪深いことなのかを勉強したので、自信を持ってマルトリはいけないことを主張して、児童家庭課もやっと動いてくれました。→普段、ツンツンしていた姉妹から『ありがとう』と礼を言われました。研修資材のおかげで、姉妹を救い、助けることができました。

2）（ある母子保健の支援者から）

夫から妻への DV の緊急保護ケースがあり、母子の受け入れ調整にバタバタしていたところです。先生が研究してくださった虐待の影響を社会がしっかり理解し、だからこそ「とも育て！」という、新たな流れを作りたいなと思いました。各地域で、地域に根ざした素敵なことができていったらなと思いました。また、子育てで本当に心配な所を、優しくまとめてくださり、友田先生の言葉が、子育て中のママ達に届くといいなと思いました。微力でも、まだまだやることは沢山あるので頑張ろうと思いました。
全国の子どもを持つご家族が、肩の力を抜いて子ども達と工夫しながら生活し、褒める子育てが楽しくできていきますように。

3）（ある児童福祉の支援者から）

６歳の愛着障害の子どもとその親（マルトリを繰り返す）を担当しています。先生の仰る通り、親に寄り添い「ほめ育て」の連鎖を作ること、そしてそれを作るために支援者がレベルアップすることが必須だと思います。またマルトリを悪と捉えるのではなく、親御さんの SOS として捉える見方を広めることも大切ですね。とはいえ、日々の業務をこなしていると大切なものを見失いがちでして、自分はまだまだあらゆる面で経験不足だと思い知らされます。これからも研修・啓発資材を活用していきたいと思います。

６―１―４．学会以外のシンポジウムなどでの招へい講演　など

(1) 友田明美.子どもの健やかな育ちのための養育者支援−アタッチメントとトラウマの脳科学的視点から−.明治安田こころの健康財団 2018 年度講座（教育講演）2018.12.2　福岡市

(2) 友田明美.子ども虐待と脳科学−アタッチメント（愛着）の視点から−.広島県西部こども家庭センター講演会（特別講演）2018.12.9　広島市

(3) 友田明美.子ども虐待と脳科学−アタッチメント（愛着）の視点から−.熊本市医師会創立記念講演会（特別講演）2018.12.13　熊本市

(4) 友田明美.DV が子どもに与える影響について.京都府健康福祉部家庭支援課 DV 被害者支援シンポジウム（特別講演）2018.12.21　京都

(5) 友田明美.子ども虐待と脳科学−マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ−.「児童の養護と未来を考える議員連盟」と「児童虐待から子どもを守る議員の会」の合同勉強会（特別講演）2018.12.26　東京都

(6) 友田明美.子どものこころの発達：児童虐待と傷ついていく脳.北陸児童思春期懇話会（特別講演）2019.1.17　金沢市

(7) 友田明美.子ども虐待と脳科学−アタッチメント（愛着）の視点から−.自民党の児童の養護と未来を考える議員連盟と、超党派の児童虐待から子どもを守る議員の会との合同の勉強会（教育講演）2019.2.12　東京都

(8) 友田明美.　養育者支援のための研究開発と社会実装.RISTEX　養育者支援プロジェクトシンポジウム 2019.2.23　熱海市

(9) 友田明美.子ども虐待と脳科学−アタッチメント（愛着）の視点から−.永平寺禅の里まちづくり講演会（特別講演）2019.3.9　福井県永平寺町

(10) 友田明美.児童思春期の愛着障害・うつを診る.第 16 回大阪精神病院協会教育研修部会薬剤師研修会（特別講演）2019.3.15　大阪市

(11) 友田明美.子ども虐待と脳科学−マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ−.第 13 回 プライマリケア医（小児科医・総合診療医）のための子どもの心の診療セミナー（教育講演）2019.3.17　草加市

(12) 友田明美.子ども虐待と脳科学−アタッチメント（愛着）の視点から−.鹿児島県医師会主催 知っておきたい 子どもたちの“こころ” 公開講座（特別講演）2019.4.11　鹿児島市

(13) 友田明美.子どもの健やかな育ちを見守る−マルトリートメント（不適切な養育）からの回復のために−.大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科開設 10 周年記念市民公開講座 「ここまで進んだ！子どものこころの科学〜最新研究から見えてくる発達障害〜」2019.4.20　大阪市

(14) 友田明美.マルトリートメント（不適切な養育）が脳に及ぼす影響−脳科学と子どもの発達−.熊本県立第一高等学校 平成 31 年度大同窓会（特別講演）2019. 4.29　熊本市

(15)友田明美.子ども虐待と脳科学−マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ−.女性精神科医による女性のメンタルヘルスを考える会（特別講演）2019.5.30 東京都

(16)友田明美.子ども虐待と脳科学−マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ−.日本学校心理士会北東北支部会（特別講演）2019.6.8　花巻市

(17)友田明美.愛の鞭ゼロ作戦−マルトリートメントが脳に与える影響−.和歌山子どもの虐待防止協会・公開講演会（特別講演）2019.6.16　和歌山市

(18)友田明美.子ども虐待と脳科学−アタッチメント（愛着）の視点から−.第66回日本小児保健協会学術集会（教育講演）2019. 6.22　東京都

(19)友田明美.児童虐待と養育者支援−脳科学の視点から−.日本精神科診療所協会総会　シンポジウム「児童虐待」2019. 6.23　さいたま市

(20)友田明美.子ども虐待と脳科学−マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ−.埼玉県助産師会講演会（特別講演）2019. 6.23　さいたま市

(21)友田明美.乳幼児期のかかわりが子どもの脳を育てる.HITOWA キッズライフ社員総会講演会（特別講演）2019. 6.29　東京都

(22)榊原信子. 児童を取り巻く課題ー子どものSOSサインと地域で出来ることー.坂井市民生委員・児童委員協議会事務局.2019.7.4　坂井市

(23)友田明美.虐待により傷ついた脳のライフサイクルへの影響.明治安田こころの健康財団2019年度講座（教育講演）2019.7.6　名古屋市

(24)友田明美.子ども虐待と脳科学−マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ−.熊本県知的障がいPTA連合会研修会（特別講演）2019.7.21　熊本市

(25)友田明美.ＤＶや児童虐待に傷つけられる脳（マルトリートメント）とは−マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ−.熊本市男女共同参画課講演会（特別講演）2019.8.5　熊本市

(26)友田明美.子ども虐待と脳科学−アタッチメント（愛着）の視点から−.第28回 松原記念講演会（特別講演）2019.8.31　金沢市

(27)友田明美.児童虐待と養育者支援−看護技術の未来を見据えて−.日本看護技術大会（特別講演）2019.9.7　福井市

(28)友田明美.ADHDと類縁疾患の脳科学−ADHDを含む神経発達症の理解−.第3回 小児神経・児童思春期精神医学夏期セミナー九州大会（教育講演）2019.9.28 大分県由布市

(29)友田明美.小児期マルトリートメントによる影響の神経生物学的知見−アタッチメントとトラウマの視点から−.第4回 医療心理懇話会（特別講演）2019.10.3　東京都

(30)友田明美.子ども時代に受けた マルトリートメントによる”癒やされない傷”に挑む.熊本県立第一高校 キャリアガイダンス講演会（特別講演）2019.10.17　熊本市

(31)榊原信子.子どもの育ちと親子関係ー学校が出来ることー.福井県教育庁 2019.11.1 永平寺町

(32)友田明美.子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-.聖マリア病院虐待対応委員会講演会（特別講演）2019.11.9　久留米市

(33)友田明美.子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-.RISTEX 実装事業講演会（特別講演）2019.12.4　大阪府枚方市

(34)榊原信子.　配慮を要する児童の対応・障がい児受入れ専門研修.　宮崎県児童館連絡協議会.2019.12.13　宮崎県

(35)友田明美.虐待により傷ついた脳のライフサイクルへの影響.明治安田こころの健康財団 2019 年度講座（教育講演）2019.12.14　福岡市

(36)友田明美.子ども虐待と脳科学-ＤＶやマルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-.第 29 回 大阪精神科病院協会・大阪精神科診療所協会合同学術講演会（特別講演）2020.2.8　大阪市

(37)友田明美.子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-.日本学校心理士会熊本支部令和元年度第３回研修会（特別講演）2020.2.15 熊本市

(38)友田明美.子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-.日本臨床心理士会研修会（Web 講演）2020.10.17　東京都・ビッグサイト

(39)榊原信子.「マルトリートメント」って何ですか?.福井市社会福井市協議会令和 2 年度児童館職員研修会 2020.10.27

(40)Tomoda A.A difference in impaired neural reward processing in children with ADHD and children with reactive attachment disorder.　Meeting of Mind XII （Web 講演）（特別講演）2020.11.13　London

(41)友田明美.DV と子ども虐待～日常に潜むマルトリートメント（不適切な養育）が脳におよぼす影響とは？～.福岡大学病院 第 7 回子ども虐待対応セミナー（特別講演）2020.11.17　福岡市

(42)友田明美.「マルトリ予防」と「とも育て」ってなんだろう？―脳科学から育むミライ.サイエンスアゴラ 2020.11.21. Web オンライン

(43)友田明美.DV と子ども虐待～日常に潜むマルトリートメント（不適切な養育）が脳におよぼす影響とは？～.令和 2 年度 鹿児島市男女共同参画推進課女性に対する暴力に関する Web 講演会（特別講演）2020.11.22　鹿児島市

(44)友田明美.子ども虐待と脳科学～日常に潜むマルトリートメント（不適切な養育）が脳におよぼす影響とは？～.宇部市こども支援ネットワーク協議会実務者会議 Web 講演会（特別講演）2020.11.27　宇部市

(45)友田明美.子どものこころの傷を理解した支援-日常に潜むマルトリートメント（避けたい子育て）が脳におよぼす影響-.西日本こども研修センターあかし Web 講演会（特別講演）2021.1.14　明石市

(46)友田明美.Enduring Neurobiological Consequences of Childhood Maltreatment（環境要因による子どもの発達への影響　―神経生物学的視点から―）.令和 2 年度 連合大学院小児発達学研究科 研究連絡会　Web 発表(シンポジウム)2021.1.22　吹田市(大阪大学)

(47)友田明美.マルトリートメントとトラウマ-日常に潜むマルトリートメント（避けたい子育て）が脳におよぼす影響-.RISTEX 研究事業シンポジウム企画 2020 年度　Web 講演（教育講演）トラウマが与える影響とは―トラウマインフォームドな社会にむけての発信―　2021.1.30　西宮市

(48)友田明美.脳科学の視点から愛着障害やうつ病を診る-「マルトリ予防」と「とも育て」の重要性-.愛知県女性精神科医の会 Web 講演会（特別講演）2021.2.5　愛知県

(49)友田明美.子どもの脳とこころを傷つけない子育て・保育とは -日常に潜むマルトリートメント（不適切な養育）が脳におよぼす影響-.鯖江市保育協議会講演会 Web 講演会（特別講演）2021.2.6　鯖江市

(50)友田明美.子どもの脳とこころを傷つけない子育て・保育とは -日常に潜むマルトリートメント（不適切な養育）が脳におよぼす影響-.杵築市保育協議会講演会 Web 講演会（特別講演）2021.2.8　杵築市

(51)友田明美.精神疾患等の子どもの理解と対応について -マルトリートメント（不適切な養育）の理解について-.令和 2 年度東京都立特別支援学校長実践研究会 Web 講演会（特別講演）2021.2.10　東京都小平市

(52)友田明美.子どもの脳とこころを傷つけない子育てとは -日常に潜むマルトリートメント（不適切な養育）が脳におよぼす影響-.沖縄県性暴力被害者ワンストップ支援センター医療関係者研修 Web 講演会（特別講演）2021.2.11　沖縄県医師会

(53)友田明美.子ども虐待と脳科学-アタッチメント（愛着）の視点から-.（京都大学集中講義）Web 講演　2021.2.12　京都大学

(54)友田明美.子ども虐待と脳科学-アタッチメント（愛着）の視点から-.大阪府医師会・子育て支援フォーラム in 大阪プログラム-若者が輝く社会を共に考える（基調講演）2021.2.13　大阪市

(55)友田明美.「とも育て」によるマルトリートメント予防と児童相談所の保健師に期待すること.全国児童相談所に働く保健師のつどい Web 講演会（特別講演）2021.2.15　静岡立大学

(56)友田明美.養育が子どもの脳に与える影響-アタッチメント（愛着）の視点から-.九州思春期研究会 Web 講演会（基調講演）2021.2.20　玉名市

(57)友田明美.子どもの脳とこころを傷つけない子育てとは　-日常に潜むマルトリートメント（不適切な養育）が脳におよぼす影響をベストセラー著者が伝えます-.NHK 出版 放送・学芸図書編集部 Web 講演会（特別講演）2021.3.13　東京都

６－２．論文発表

６―２―１．査読付き（ 23 件 ）

(1) 矢澤亜季, 滝口慎一郎, 友田明美. 不適切な養育（マルトリートメント）と脳. チャイルドヘルス 22(2), 19-22, 2019

(2) 笹井康典, 友田明美, 松岡太郎, 白井千香. 子どもの虐待防止対策は今のままでよいのか ～マルトリートメント防止を基軸とする対策への転換～. 公衆衛生情報_8 月号 83_(8), 24-25,2019

(3) 藤澤隆史, 島田浩二, 滝口慎一郎, 友田明美. 児童期逆境体験（ACE）が脳発達におよぼす影響と養育者支援への展望. 精神神経学雑誌 122(2), 135-143, 2020

(4) Jung M, Mizuno Y, Fujisawa TX, Takiguchi S, Kong J, Kosaka H, Tomoda A. The effects of COMT polymorphism on cortical thickness and surface area abnormalities in children with ADHD. Cereb Cortex, 29(9), 3902-3911, 2019.doi: 10.1093/cercor/bhy269

(5) Yazawa A, Takada S, Suzuki H, Fujisawa TX, Tomoda A. Association between parental visitation and depressive symptoms among institutionalized children in Japan. BMC Psychiatry, 19:129, 2019.doi: 10.1186/s12888-019-2111-x

(6) Fujisawa TX, Nishitani S, Takiguchi S, Shimada K, Smith AK, Tomoda A. Oxytocin receptor DNA methylation and alterations of brain volumes in maltreated children. Neuropsychopharmacology, 44, 2045-2053, 2019.doi: 10.1038/s41386-019-0414-8

(7) Shimada K, Kasaba R, Yao A, Tomoda A. Less efficient detection of positive facial expressions in parents at risk of engaging in child physical abuse. BMC Psychology, 7:56, 2019.doi: 10.1186/s40359-019-0333-9

(8) Mizuno Y, Shimono KK, Jung M, Makita K, Takiguchi S, Fujisawa TX, Tachibana M, Nakanishi M, Mohri I, Taniike M, Tomoda A. Structural brain abnormalities in children and adolescents with comorbid Autism Spectrum Disorder and Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder. Transl Psychiat, 9(1):332, 2019.doi: 10.1038/s41398-019-0679-z

(9) Jung M, Takiguchi S, Hamamura S, Mizuno Y, Kosaka H, Tomoda A. Thalamic volume is related to increased anterior thalamic radiations in children with reactive attachment disorder. Cereb Cortex, Mar 7, 2020.doi: 10.1093/cercor/bhaa051

(10) Hiraoka D, Tomoda A. The Relationship Between Parenting Stress and School Closures due to the COVID‐19 Pandemic. Psychiatry and Clinical Neurosciences,74(9),497-498,2020.6.17.doi.org/10.1111/pcn.13088

(11) Kosaka T, Kawatani M, Ohta G, Mizuno Y, Takiguchi S, Kumano A, Hayashi H, Fujine A, Tsuda A, Fujisawa TX, Tomoda A, Ohshima Y. Low threshold to Vestibular

and Oral Sensory stimuli might affect quality of sleep among children with autism spectrum disorder. Brain Dev,S0387-7604(20)30193-5,2020. doi:10.1016/j.braindev.2020.07.010

(12)Makita K, Takiguchi S, Naruse H, Shimada K, Morioka S, Fujisawa TX, Shimoji K, Tomoda A. White matter changes in children and adolescents with reactive attachment disorder: a diffusion tensor imaging study. Psychiatry Res Neuroimaging, 303, 111129, August 25, 2020.

(13)Fujioka T, Fujisawa TX, Okamoto Y, Fujioka T, Inohara K, Ishitobi M, Matsumura Y, Jung M, Kawamura K, Takiguchi S, Tomoda A, Wada Y, Hiratani M, Matsuura N, Kosaka H. Attenuated relationship between saliva oxytocin levels and attention to social information in young adults with autism spectrum disorder: a comparative study. Ann Gen Psychiatry, 19(38), June 4, 2020.

(14)Suzuki S, Fujisawa TX, Sakakibara N, Fujioka T, Takiguchi S, Tomoda A. Development of Social Attention and Oxytocin Levels in Maltreated Children. Sci Rep,10(1),7407, 2020.5.4 doi:10.1038/s41598-020-64297-6

(15)Fujioka T, Tsuchiya KJ, Saito M, Hirano Y, Matsuo M, Kikuchi M, Maegaki Y, Choi D, Kato S, Yoshida T, Yoshimura Y, Ooba S, Mizuno Y, Takiguchi S, Matsuzaki H, Tomoda A, Shudo K, Ninomiya M, Katayama T, Kosaka H. Developmental changes in attention to social information from childhood to adolescence in autism spectrum disorders: a comparative study Molecular Autism.Molecular Autism, 11, 24, 2020.4.9. doi:10.1186/s13229-020-00321-w

(16)Kimura Y, Fujioka T, Jung M, Fujisawa TX, Tomoda A, Kosaka H. An investigation of the effect of social reciprocity, social anxiety, and letter fluency on communicative behaviors in adults with autism spectrum disorder. Psychiatry Res, October 13, 2020.

(17)Kuboshita R, Fujisawa TX, Makita K, Kasaba R, Okazawa H, Tomoda A. Neural basis of mother-child interaction by eye gaze: A resting-state fMRI study. Sci Rep, 10, 18903, 2020.

(18)Saito T, Yamashita Y, Tomoda A, Okada T, Umeuchi H, Iwamori S, Shinoda S, Mizuno-Yasuhira A, Urano H, Nishino I, Saito K. Using the drug repositioning approach to develop a novel therapy, tipepidine hibenzate sustained-release tablet (TS-141), for children and adolescents with Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder. BMC Psychiatry, Nov 10;20(1):530, 2020.

(19)Nishitani S, Suzuki S, Ochiai K, Yao A, Fujioka T, Fujisawa TX, Tomoda A. Accelerated epigenetic clock in children exposed to severe maltreatment. Psychiat Clin Neuros, Dec 10; 2020.

(20)椎野智子, 榊原信子, 友田明美.マルトリートメントの理解に関する研修効果の検討. 小児の精神と神経, 60 (4) , 337-343, 2021.
(21)Hiraoka D, Nishitani S, Shimada K, Kasaba R, Fujisawa TX, Tomoda A. Epigenetic modification of the oxytocin gene is associated with gray matter volume and trait empathy in mothers. Psychoneuroendocrinology, 123, 105026, January 2021.
(22)Kasaba R, Shimada K, Tomoda A. Neural mechanisms of parental communicative adjustments in spoken language. J Neurosci, 457: 206-217, 1 March, 2021.
(23)Aoi T, Fujisawa TX, Nishitani S, Tomoda A. Mismatch negativity of preschool children at risk of developing mental health problems. Neuropsychopharmacol Rep, 19 February: 1-7, 2021.

６―２―２．査読なし（ 24 件 ）

(1) 友田明美、マルトリートメント予防モデルの構築、小六教育技術 1 月号『ドクター友田の脳から読み解く愛着障害＆発達障害 第 9 回』、2018.12.15
(2) 友田明美、子どもの脳を伸ばす親になる！科学的に正しい接し方、プレジデントベイビー　2020 年保存版、110-117、2020.04.28
(3) 椎野智子、友田明美、インターネット・スマホが子どものこころと脳に及ぼす影響、こころの科学、211、26-29、2020.5.1
(4) 友田明美、子ども虐待と脳科学、小児科、61(6)、871-877、2020.5.1
(5) 友田明美、子ども虐待(マルトリートメント)は脳にどのようなダメージを与えるのか－虐待の脳科学から視えてきた「とも育て」の重要性－、手話通訳　問題研究、152、56-57、2020.5.20
(6) 友田明美、虐待は子どもの脳を傷つける、チャイルドヘルス、23(6)、32-33、2020.6.1
(7) 友田明美、脳科学的な診断技術の進歩、児童青年精神医学とその領域、61 (3)、44-48、2020.6.1
(8) 友田明美、脳を傷つけないために、PHP　のびのび子育て　八月特別増刊号、83-89、2020.6.18
(9) 矢尾明子、島田浩二、笠羽涼子、牧田 快、友田明美、ADHD 児の母親に対するペアレント・トレーニングの効果が子どもの実行機能改善の及ぼす影響の予備的検討、発達研究、(34)、137-146、2020.6.20
(10)友田明美、子どもの健やかな育ちのためのマルトリートメント予防と養育者支援、小児の精神と神経、60 (2)、111-115、2020.7.1
(11)友田明美、マルトリートメント予防モデル　大阪の取り組み、地域保健、51 (4)、32-35、2020.7.1
(12)友田明美、運動部活動における体罰の影響、部活動学、221-233、2020.6.30

(13)友田明美、マルトリートメント(子ども虐待）は脳にどのようなダメージを与えるのか－子ども虐待の脳科学から視えてきた「とも育て」の重要性－、幼児教育じほう、48(6)、12-18、2020.9.1

(14)友田明美、虐待などのマルトリーメントが子どもに与えるダメージ、臨床心理学、20(5)、530-534、2020.9.10

(15)友田明美、虐待が脳を「壊す」～「マルトリートメント」が変容を生む～、サンデー毎日、99（43)、106-109、2020.9.20

(16)友田明美、虐待は「環境」が招く～親から子へ負の連鎖「複雑性 PTSD」～、サンデー毎日、99（44)、104-107、2020.9.27

(17)友田明美、マルトリートメントによる子供の脳の変化と親の支援、月刊保団連、1333、4-9、2020.11.2

(18)友田明美、「マルトリ予防」と「とも育て」の重要性、ほけんニュース、441（1)、4、2020.11.8

(19)友田明美、虐待が子どもに及ぼす影響、立川市子ども支援ネットワーク、6-7、2020

(20)友田明美、幼少期のマルトリートメントストレスが脳発達に与える影響－脳科学とエピゲノム科学からの知見、週刊 医学のあゆみ、275（9)、957-962、2020.11.28

(21)友田明美、貧困が障害を生む　－孤育て、虐待、体罰への対応必至－、サンデー毎日、99（61)、90-93、2020.12.20

(22)友田明美、子どものマルトリートメントに関する最近の神経性物学的知見、精神科治療学、36（1)、11-15、2021.1.19

(23)友田明美、子どもへの悪影響、今日から『叩かない』『怒鳴らない』ための子育てハンドブック、東村山市子ども家庭支援センター編、2021.2

(24)友田明美、子育て困難な家庭を孤立させない「おせっかい」が大事です、虐待防止マニュアル、東京都新宿区子ども総合センター編、2021.2

６－３．口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

６―３―１．招待講演（国内会議 24 件、国際会議 0 件）

(1) 友田明美（福井大学）. 発達障害と児童虐待に起因する愛着障害との類似と相違：神経生物学的知見から治療戦略まで. 第24回日本子ども虐待防止学会おかやま大会（教育講演）2018.12.1　岡山市

(2) 友田明美（福井大学）. 子ども虐待と脳科学–アタッチメント（愛着）の視点から–. 日本情動学会広島大会（教育講演）2018.12.9　広島市

(3) 友田明美（福井大学）. 子どものこころの発達：児童虐待と傷ついていく脳. 第33回日本助産学会学術集会 市民公開講座（教育講演）2019.3.2　福岡市

(4) 友田明美（福井大学）. 親子の関係性発達が脳の発達に与える影響–アタッチメント（愛着）の視点から–. 日本発達心理学会 国内交流委員会企画シンポジウム2019.3.18　東

京都早稲田大学

(5) 友田明美（福井大学）. 子ども虐待と脳科学 −アタッチメント（愛着）の視点から−. 第30回日本医学会総会（市民公開シンポジウム）「母と子のこころを知り、支える」2019.4.28　名古屋市

(6) 友田明美（福井大学）. 子ども虐待と脳科学−マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ−. 第11回 日本小児科学会長野地方大会（特別講演）2019.5.26　長野市

(7) 友田明美（福井大学）. 子どもの健やかな育ちのためのマルトリートメント予防と養育者支援. 第61回 日本小児神経学会学術集会ランチョンセミナー（教育講演）2019.6.2 名古屋市

(8) 友田明美（福井大学）. 子ども虐待と脳科学−アタッチメント（愛着）の視点から−. 日本小児科学会岩手地方会（特別講演）2019.6.8　盛岡市

(9) 友田明美（福井大学）. 子ども虐待と脳科学−マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ−. 日本トラウマティック・ストレス学会（教育講演）2019.6.15　京都市

(10) 友田明美（福井大学）. 虐待により傷ついた脳のライフサイクルへの影響. 第21回 日本母性看護学会学術集会（特別講演）2019.6.15　広島市

(11) 友田明美（福井大学）. 児童期逆境体験（ACE）とその影響、および養育者支援研究. 第115回 日本精神神経学会シンポジウム「子どもを虐待したくてしているわけじゃない！−逆境体験（ACE）に精神科医療はどう向き合うか−」2019.6.20　新潟市

(12) 友田明美（福井大学）. 子ども虐待と脳科学−マルトリートメントによる心の痛みと回復へのアプローチ−. 日本ペインクリニック学会第53回大会（招聘講演）2019.7.20　熊本市

(13) 友田明美（福井大学）. マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ〜気づき・支え・次世代につなぐ医療者の役割〜. 日本子ども虐待医学会函館大会（教育講演）2019.7.27　函館市

(14) 友田明美（福井大学）. 児童虐待と養育者支援−看護師の立場からできること−. 第50回日本看護学会（ランチョンセミナー）2019.8.30　福井市

(15) 友田明美（福井大学）. 働く母の育児と健やかな子どもの成長のために必要な視点. 日本糖尿病学会中部地方会（特別講演）2019.9.7　福井市

(16) 友田明美（福井大学）. 子どもの健やかな育ちのためのマルトリートメント予防と養育者支援. 第122回 日本小児精神神経学会福井大会（会長講演）2019.11.3　福井市

(17) 友田明美（福井大学）. 親子の関わりが子どもに与える影響について−マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ−. 第22回 奈良県小児保健学会（特別講演）2019.11.7　奈良市

(18) 友田明美（福井大学）. 初期経験がつくる「こころ」と「脳」の発達および感受性期〜

マルトリートメントに よる脳への影響と回復へのアプローチ～.第5回 日本発達神経科学会（シンポジウム）2019.11.24　京都市

(19)友田明美（福井大学）.児童・思春期発症の精神疾患に対する早期介入の重要性 ～神経生物学的視点から～.第60回 日本児童青年精神医学会（ランチョンセミナー）2019.12.6　那覇市

(20)友田明美（福井大学）.脳科学的な診断技術の進歩（自閉スペクトラム症）.第60回 日本児童青年精神医学会（教育講演）2019.12.6　那覇市

(21)榊原信子（福井大学）.子ども虐待の未然防止を目指して　ー妊娠期からのきれ目のない支援と親が安心できる関係づくりー、第 26 回日本子ども虐待防止学会学術集会 いしかわ大会（大会企画シンポジウム)、2020.11.28 金沢市（web オンライン）

(22)友田明美(福井大学).子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-.滋賀県の精神医療と未来を考える会 Web 講演会（特別講演）2021.2.27　滋賀県

(23)友田明美（福井大学）.マルトリートメントによる脳発達への影響-神経生物学的視点から-.第 34 回近畿小児科学会 Web 講演（特別講演）2021.2.28　大阪市

(24)友田明美（福井大学）.神経発達症と類縁疾患の神経生物学～神経発達症やアタッチメント障害の理解～.日本発達心理学会第 32 回大会企画 Web シンポジウム個体発達に生態学環境が与える影響―日本の子どもたちを取り巻く環境を再検討する―2021.3.29-31　大阪市

６―３―２．口頭発表（国内会議 2 件、国際会議 0 件）

(1) 牧田快・矢尾明子・島田浩二・笠羽涼子・友田明美（福井大学)、ADHD児の母親に対するペアレント・トレーニングが子どもの安静時脳機能に及ぼす影響－fMRIを用いた検討―、日本ADHD学会第11回総会、東京、2020.2.29（コロナで中止のため抄録受理）

(2) 滝口慎一郎・友田明美（福井大学)、COVID-19 感染拡大に伴う休校措置中に一次保護措置となった発達障害児の養育者が抱える育児ストレスの特徴、第 78 回日本小児神経学会北陸地方会完全、web オンライン、2021.2.7

６―３―３．ポスター発表（国内会議 2 件、国際会議 0 件）

(1) 椎野智子・島田浩二・榊原信子・友田明美（福井大学)、マルトリートメントの理解に関する研修効果の検討―子ども虐待を低減するシステムの構築を目指して―、第122回日本小児精神神経学会、福井市、2019.11.2-3

(2) RISTEX「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」領域「養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステムの構築」プロジェクト、“マルトリ予防”と“共育て”を学ぼう・広めよう！、日本子ども虐待防止学会第 26 回学術集会いしかわ金沢大会（パネル展示)、2020.11.28-29（オンデマンド配信 11.20～12.20）

６－４．新聞報道・投稿、受賞など

６―４―１．新聞報道・投稿

(1) 2018 年 12 月 3 日掲載、NHK NEWS WEB、「注意欠陥・多動性障害の子 脳に共通の特徴発見福井大学」

(2) 2018 年 12 月 3 日掲載、「福井大学 科学技術 振興機構（JST）共同発表」、「ADHD の脳構造の特徴を人工知能により解明し、遺伝子多型の影響を発見」

(3) 2018 年 12 月 4 日掲載、日刊県民福井（1 面）、「特定の部位に特徴　AI 解析　福井大教授ら発見注意欠陥多動障害の子」

(4) 2018 年 12 月 4 日掲載、中日新聞（19 面）（福井版）、「注意欠陥多動性障害は脳に特徴福井大チームが AI で解析:福井:中日新聞」

(5) 2018 年 12 月 5 日掲載、日刊工業新聞（19 面）、「福井大、ADHD の脳の特徴発見 MRI で検査５分、子どもの負担軽減」

(6) 2018 年 12 月 5 日掲載、福井新聞 ONLINE、「ADHD の子ども、脳に特徴出現福井大学チームが AI で解析」

(7) 2018 年 12 月 6 日掲載、QLifePro 医療ニュース、「ADHD の脳構造の特徴を AI で解明、遺伝子多型の影響を発見－JST ら」

(8) 2018 年 12 月 21 日掲載、科学新聞（4 面）、「ADHD 児　高頻度で脳特定部位に特徴」

(9) 2018 年 12 月 25 日掲載、熊本日々新聞（7 面）、「深読み TV「プロフェッショナル」おせっかい医師 子育て豊かに」

(10) 2019 年 1 月 5 日掲載、大学ジャーナルオンライン、「福井大学、ADHD の脳構造の特徴を人工知能により解明することに成功」

(11) 2019 年 1 月 6 日掲載、福井新聞（4 面）　週間 TV ガイド、「深読み TV 『プロフェッショナル仕事の流儀』虐待根絶へ医師の情熱」

(12) 2019 年 1 月 10 日掲載、朝日新聞（2 面）　be on Saturday、「be ・フロントランナー 2018 ランキング」

(13) 2019 年 1 月 19 日掲載、BIGLOBE ニュース、「親の暴言が子供の脳を傷つける！夫婦喧嘩以上に気を付けなければいけない事とは?」

(14) 2019 年 2 月 3 日掲載、聖教新聞（6 面）、「子育てはやり直せる 上」

(15) 2019 年 2 月 10 日掲載、聖教新聞、「子育てはやり直せる 下」

(16) 2019 年 2 月 17 日掲載、毎日新聞（27 面）、「法律で体罰禁止 54 か国 虐待防止に高い効果」

(17) 2019 年 3 月掲載、DV 防止啓発ニュース vol.13、「DV 被害者支援シンポジウムを開催しました」

(18) 2019 年 3 月 6 日掲載、北陸中日新聞（2 面）、「子の脳傷つきます　親の暴言、夫婦げんか」

(19)2019 年 3 月 9 日掲載、デジタル毎日新聞、「消えない傷-今苦しんでいるあなたへ 友田明美さん「性的虐待で脳が萎縮する」」
(20)2019 年 3 月 19 日掲載、View point、「子育て無免許運転をなくせ」
(21)2019 年 3 月 19 日掲載、熊本日々新聞、「体罰禁止 問われるしつけ」
(22)2019 年 3 月 25 日掲載、北海道新聞（33 面）、「子どもを守ろう 第 6 部 未来に向けて傷つく脳深まる孤立」
(23)2019 年 4 月 2 日掲載、福井新聞、「【科学する人】虐待の悪影響を実証　脳の変化ＭＲＩ使い研究　福井大・子どものこころの発達研究センター教授 友田明美さん　『共同子育て広めたい』」
(24)2019 年 4 月 24 日掲載、南日本新聞（13 面）、「虐待は脳の発達に影響」
(25)2019 年 5 月 29 日掲載、NHK 福井、「虐待児 オキシトシン遺伝子に異常」
(26)2019 年 5 月 30 日掲載、読売新聞（29 面）、「虐待児 遺伝子と脳に異常」
(27)2019 年 5 月 30 日掲載、福井新聞（3 面）、「虐待 子どものホルモンに影響 脳、愛着形成と関連」
(28)2019 年 5 月 30 日掲載、福井新聞オンライン、「虐待受けた児童、脳の容積小さく 愛情ホルモン働かず愛着形成にも影響」
(29)2019 年 6 月 2 日掲載、しんぶん赤旗（35 面）、「暴言部活指導指針できても…脳への悪影響身体暴力より深刻」
(30)2019 年 6 月 4 日掲載、山陽新聞、「科学する人_発達小児科医_友田明美_中」
(31)2019 年 6 月 5 日掲載、朝日新聞（25 面）、「暴力のダメージ_子の成長後も_親の体罰失くすには_上」
(32)2019 年 6 月 11 日掲載、山陽新聞、「科学する人_発達小児科医_友田明美_下」
(33)2019 年 6 月 14 日掲載、科学新聞（8 面）、「オキシトシンのメチル化率 子供の不適切養育で高まる」
(34)2019 年 6 月 18 日掲載、熊本日日新聞（21 面）、「科学する人―発達小児医の友田明美さん上―虐待で脳に変化実証」
(35)2019 年 6 月 21 日掲載、読売新聞（1 面）、「子への『懲戒権』見直し」
(36)2019 年 7 月 5 日掲載、熊本日日新聞（21 面）、「科学する人―発達小児医の友田明美さん中―親友の不登校で心や体に興味」
(37)2019 年 7 月 12 日掲載、熊本日日新聞（16 面）、「科学する人―発達小児医の友田明美さん下―社会全体で子育てを」
(38)2019 年 7 月 17 日掲載、静岡新聞夕刊（1 面）、「出口を探して②児童虐待防止
(39)2019 年 7 月 20 日掲載、中四国・関西医事新報社（14 面）、「＜学校レポート＞第 18 回日本トラウマスティック・ストレス学会」
(40)2019 年 7 月 27 日掲載、福井新聞（7 面）、「子育て支援考える異業種交流会開催」

(41)2019 年 8 月 8 日掲載、熊本日日新聞（15 面)、「DV 虐待やめて　熊本市で防止セミナー」
(42)2019 年 8 月 8 日掲載、熊本日日新聞（15 面)、「児童虐待_小児科の視点_下_「褒め育て」の連鎖_親も自信」
(43)2019 年 8 月 23 日掲載、中日新聞（2 面)、「あの人に迫る_友田明美_脳も傷つく虐待社会が止めよう」
(44)2019 年 9 月 1 日掲載、北國新聞、「虐待と脳の関係説明」
(45)2019 年 9 月 8 日掲載、大人んサー、「虐待より広い不適切行為の概念「マルトリートメント」、子育てに悩む親を救えるか」
(46)2019 年 10 月 17 日掲載、熊本県立第一高等学校 最新 News、「キャリアガイダンス（全体講演)」
(47)2019 年 10 月 24 日掲載、福井新聞（17 面)、「『マルトリ』問題　考えよう虐待、育児放棄など避けるべき養育　来月福井で講座」
(48)2019 年 11 月 9 日掲載、毎日新聞夕刊（3 面)、「虐待被害後_なお苦悩」
(49)2019 年 11 月 11 日掲載、日本経済新聞_電子版、「虐待に潜む親の『心の病』孤立防ぎ、早めの治療を」
(50)2019 年 11 月 29 日掲載、たまひよ、「子どもの脳、自尊心が育つほめ方『耳打ち効果』って？」
(51)2019 年 12 月 2 日掲載、たまひよ、「“もう、知らない”日常的な言葉の暴力が子どもの脳を傷つける」
(52)2019 年 12 月 8 日掲載、たまひよ、「子どもの成長を妨げる『マルトリートメント（不適切な養育)』とは？」
(53)2020 年 1 月 25 日掲載、幻冬舎ゴールドオンライン、「連載_実は危ない！　その育児が子どもの脳を変形させる　第 1 回_親の何気ない一言で『子どもの脳』は物理的に変形する」
(54)2020 年 1 月 31 日掲載、幻冬舎ゴールドオンライン、「連載_実は危ない！　その育児が子どもの脳を変形させる　第 2 回_虐待で『脳の傷』ができた子ども…どのような症状が出るのか？」
(55)2020 年 2 月 8 日掲載、幻冬舎ゴールドオンライン、「連載_実は危ない！ その育児が子どもの脳を変形させる　第 3 回_子どもの脳を変形させる親の行為とは？…小児神経科医が解説」
(56)2020 年 2 月 10 日掲載、子育て世代がつながる東京すくすく_東京新聞、「『マルトリ』は子どもの脳に悪影響　親のつらさをケアしなければ　小児神経科医・友田明美さんが説く『とも育て』」

(57)2020 年 2 月 15 日掲載、幻冬舎ゴールドオンライン、「連載_実は危ない！ その育児が子どもの脳を変形させる　第 4 回_『言葉の暴力』は身体的暴力よりも『子どもの脳にダメージ大』」

(58)2020 年 2 月 22 日掲載、幻冬舎ゴールドオンライン、「連載_実は危ない！ その育児が子どもの脳を変形させる　最終回_子ども時代に虐待で『脳に大きな傷』…心理療法で回復するか？」

(59)2020 年 3 月 16 日掲載、たまひよ、「子どもの脳や心にダメージを負わす『マルトリートメント』　乳幼児期のかかわり方がカギ」

(60)2020 年 3 月 17 日掲載、たまひよ、「子どもの未来を奪わない！　脱マルトリ（不適切な養育）のしかり方、かかわり方・小児神経科医」

(61)2020 年 3 月 18 日掲載、たまひよ、「こころが不安定…。マルトリ（不適切な養育）のサインに気づいたら、周囲に SOS を！小児神経科医」

(62)2020 年 4 月 17 日掲載、e らぽーる、日児童虐待（マルトリートメント）と精神科医療関係者とのかかわりについて　-虐待の脳科学から視えてきたこと-

(63)2020 年 4 月 22 日掲載、日刊県民福井（2 面）、友田教授に科学技術賞

(64)2020 年 4 月 22 日掲載、中日新聞（11 面）、文科相表彰の科学技術省　福井大・友田教授が受賞

(65)2020 年 4 月 28 日掲載、福井新聞（2 面）、文科相表彰の科学技術省　友田・福井大教授に

(66)2020 年 5 月 10 日掲載、アゴラ、巣ごもり生活で子どもにどう対応するか ～専門家に聞く

(67)2020 年 5 月 2 日掲載、聖教新聞（5、7 面）、私たちから褒めの連鎖を！

(68)2020 年 5 月 15 日掲載、プレジデントウーマン、コロナ休校でイライラしがちな親が、子供を上手にほめる 3 つのコツ

(69)2020 年 5 月 16 日放送、NHK ニュース、コロナ禍　保護者休校続き育児ストレス増加、友田明美，平岡大樹

(70)2020 年 5 月 19 日掲載、Be-Daiamond、親も子どもも楽しく過ごせるような子育てができる世の中を作りたい

(71)2020 年 5 月 22 日掲載、福井新聞オンライン、掲載長引く休校で育児ストレス、どう解消

(72)2020 年 5 月 22 日掲載、福井新聞（2 面）、休校、親の心の負担増

(73)2020 年 5 月 26 日放送、福井テレビ Live News、学校再開の日程が決まり、子供たちの教育にこれから何が必要となってくるのか、約２か月の休校措置で子供たちの教育や心理面に及ぼす影響などについて、友田明美

(74)2020 年 8 月 1 日掲載、致知、親と子の幸せを創る子育て

(75)2020 年 8 月 22 日掲載、毎日新聞(17 面)、児童養護施設出身者にケアを

(76)2020 年 9 月 22 日掲載、週刊朝日、乳児の口に他人の血――医師もだまされる「代理ミュンヒハウゼン症候群」
(77)2020 年 11 月 7 日掲載、熊本日日新聞社(2 面)、子への性的虐待　迅速な把握が欠かせない
(78)2020 年 11 月 11 日掲載、おおた区報(1 面)、なぜ体罰などがいけないの？
(79)2020 年 11 月 16 日プレス掲載、「福井大学 科学技術 振興機構（JST）共同発表」、子ども虐待の低減に向けた養育者を支援する研修・啓発資材の開発　～「とも育て™」による「マルトリ予防™」の普及～、大阪府
(80)2020 年 11 月 16 日プレス掲載、 文部科学省共通政策課題事業 子どものこころの研究センターから展開する国際研究拠点の形成と社会実装、「こども虐待の低減にむけた養育者を支援する研修・啓発資材の開発―「とも育て™」による「マルトリ予防™」の普及―」、http://www.ugscd.osaka-u.ac.jp/crnacdd/achievements/seika201116.html
(81)2020 年 11 月 21 日掲載、西日本新聞(20 面)、養育者の支援も大切
(82)2020 年 11 月 29 日掲載、中日新聞(13 面)、マルトリ予防に理解を
(83)2020 年 12 月 1 日掲載、産経新聞(27 面)、悩み共有　過去と決別　　「愛着障害」向き合う母
(84)2020 年 12 月掲載、日本家族計画協会機関紙「健康と家族」12 月号
(85)2020 年 12 月掲載、ボーネルンド、「褒める子育て」と成功体験の 積み重ねが大切です
(86)2020 年 12 月 27 日掲載、福井新聞(27 面)、不適切教育予防に教材

６―４―２．受賞

(1) 矢尾明子、日本ADHD学会第10回総会 優秀発表賞、2019年3月3日
(2) 友田明美、 国際ソロプチミスト協会-福井会長賞、2019年12月17日
(3) 友田明美、文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）、虐待などのマルトリートメント予防モデル構築のための研究、2020 年 4 月 14 日
(4) Takiguchi S, Makita K, Fujisawa TX, Shimada K, Tomoda A, 第 62 回学術集会 English Session 奨励賞, White matter tract abnormalities in children with reactive attachment disorder, 2020 年 9 月 1 日
(5) 藤澤隆史、発達心理学会国際奨励賞（2020 年）

６―４―３．その他

(1) 2019年1月19日放送に出演、日本テレビ 世界一受けたい授業、「子どもの脳を変形させるマルトリートメント！第2弾」
(2) 2019年2月10日放送に出演、Professionals - TV - NHK WORLD - English、「Healing Wounded Families, Akemi Tomoda, Child Neurologist」
(3) 2019年2月17日放送に出演、福井テレビ タイムリーふくい、「児童虐待…県内状況は」

(4) 2019年2月18日放送に出演、BS日テレ「深層NEWS」、「親のひと言が虐待に？ 子どもの脳に重い傷痕」
(5) 東京都「体罰等によらない子育て」に係る普及啓発事業に専門家 PT として参画、啓発資材・WEB コンテンツ作成に協力 https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/osekkai、東京都福祉保健局編 2021 年 2 月
(6) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン「体罰等によらない子育て」に係る普及啓発のための動画制作に貢献、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 2021 年 3 月

６－５．知的財産

６―５―１．国内特許出願（ ０件 ）

６―５―２．海外特許出願（ ０件 ）

６－５－３．商標権出願（ ３件 ）

(1)商標登録: 第 6317223 号、申請者：友田明美、商標の名称：マルトリ予防
(2)商標登録: 第 6317224 号、申請者：友田明美、商標の名称：マルトリ予防士
(3)商標登録: 第 6317225 号、申請者：友田明美、商標の名称：とも育て

６－５－４．著作権の確保（ ６件 ）

(1)動画教材
・講師：友田明美、マルトリートメント(マルトリ)が脳に与える影響、福井大学子どものこころの発達研究センター、2020 年 3 月 31 日
(2)啓発資材
・著者：友田明美、協力：福井大学子どものこころの発達研究センター（椎野智子・榊原信子・矢尾明子・藤澤隆史・島田浩二・滝口慎一郎）・大阪府こころの健康総合センター・豊中市保健所・枚方市保健所、マルトリートメント（マルトリ）が脳に与える影響　映像テキストブック、福井大学子どものこころの発達研究センター、2020 年 3 月 31 日
・著者：島田浩二・矢尾明子・友田明美、協力：福井大学子どものこころの発達研究センター（藤澤隆史・笠羽涼子・椎野智子・牧田快・榊原信子・滝口慎一郎・久保下亮)、大阪府こころの健康総合センター・豊中市保健所・枚方市保健所、脳科学から考えるマルトリ予防のすすめ　－地域社会みんなでともに育ち合うために、福井大学子どものこころの発達研究センター、2020 年 3 月 31 日
・著者：榊原信子・椎野智子・友田明美、協力：福井大学子どものこころの発達研究センター（藤澤隆史・滝口慎一郎・島田浩二・矢尾明子）・大阪府こころの健康総合センター・豊中市保健所・枚方市保健所、子どもの脳とこころがすくすく育つ マルトリに対応する支援者のためのガイドブック、福井大学子どものこころの発達研究センター、2020 年 3 月 31 日
(3)市民啓発資材一式
・協力：福井大学子どものこころの発達研究センター・大阪府こころの健康総合センター・

豊中市保健所・枚方市、計 11 パターン（総論①・総論②・妊娠期・乳児期前半・乳児期後半・1～2 歳・3～4 歳・5～6 歳、小学校低学年、思春期、中学校卒業後）、2021 年 3 月 31

(4) アンケート

・「マルトリが脳に与える影響」アンケート（研修受講前・研修受講後）、2020 年 3 月 31 日

７．領域のプロジェクトマネジメントについてのご意見や改善提案（任意）

８．その他（任意）